帝国書院

＊本冊子に掲載している内容は、
一部変更となる場合があります。

令和５（2023）年度以降版

教科書のご案内

内容解説資料
世　探－703

「教科書発行者行動規範」に則っております。

文部科学省検定済教科書　高等学校地理歴史科用

46	帝国	世探－703

新詳 世界史探究

A World History

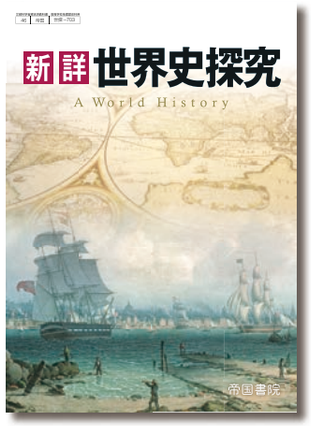
通史と同時代史をバランスよく記述！

現代世界の成り立ちがわかりやすい教科書

特色１　因果関係を丁寧に記した、理解しやすい「本文記述」…… 6
特色２　文化と社会のつながりがわかる「文化から見る当時の社会」…… 10
特色３　世界全体のつながりがわかる「結びつく世界」…… 14
特色４　探究する力が身につく「探究TRY」「読み解き」…… 18
特色５　理解がさらに深まる「紙面の三段構成」…… 22

帝国書院

通史と同時代史を　バランスよく記述！
現代世界の成り立ちが　わかりやすい教科書



新詳 世界史探究

令和5（2023）年度発刊
世探－703
B5判　366ページ

■QRコンテンツ

著者執筆の用語解説や、学校法人河合塾と共同作成した演習問題、教科書準拠の一問一答、動画などのデジタルコンテンツが充実。

＊詳細は本冊子p.32-33および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

■関連教材

指導資料や準拠ノートなどの関連教材が充実。

＊詳細は本冊子p.34-35および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

● 新科目「世界史探究」とは

◎「世界史B」を発展的に継承する科目。諸地域を「歴史的特質の形成」「交流・再編」「結合・変容」の３区分で学んだ後、地球世界の課題を探究する。歴史の理解に加えて、「歴史総合」でつちかった「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、主題・問いの設定や資料を活用しつつ多面的・多角的に考察する学習活動が求められる。

世界史Ｂの内容

（１）世界史への扉
- ア　自然環境と人類のかかわり
- イ　日本の歴史と世界の歴史のつながり
- ウ　日常生活にみる世界の歴史

（２）諸地域世界の形成
- ア　西アジア世界・地中海世界
- イ　南アジア世界・東南アジア世界
- ウ　東アジア世界・内陸アジア世界
- エ　時間軸からみる諸地域世界

（３）諸地域世界の交流と再編
- ア　イスラーム世界の形成と拡大
- イ　ヨーロッパ世界の形成と展開
- ウ　内陸アジアの動向と諸地域世界
- エ　空間軸からみる諸地域世界

（４）諸地域世界の結合と変容
- ア　アジア諸地域の繁栄と日本
- イ　ヨーロッパの拡大と大西洋世界
- ウ　産業社会と国民国家の形成
- エ　世界市場の形成と日本
- オ　資料からよみとく歴史の世界

（５）地球世界の到来
- ア　帝国主義と社会の変容
- イ　二つの世界大戦と大衆社会の出現
- ウ　米ソ冷戦と第三世界
- エ　グローバル化した世界と日本
- オ　資料を活用して探究する地球世界の課題

世界史探究の内容

A　世界史へのまなざし
- （１）地球環境から見る人類の歴史
- （２）日常生活から見る世界の歴史

B　諸地域の歴史的特質の形成
- （１）諸地域の歴史的特質への問い
- （２）古代文明の歴史的特質
- （３）諸地域の歴史的特質

C　諸地域の交流・再編
- （１）諸地域の交流・再編への問い
- （２）結び付くユーラシアと諸地域
- （３）アジア諸地域とヨーロッパの再編

D　諸地域の結合・変容
- （１）諸地域の結合・変容への問い
- （２）世界市場の形成と諸地域の結合
- （３）帝国主義とナショナリズムの高揚
- （４）第二次世界大戦と諸地域の変容

E　地球世界の課題
- （１）国際機構の形成と平和への模索
- （２）経済のグローバル化と格差の是正
- （３）科学技術の高度化と知識基盤社会
- （４）地球世界の課題の探究

「E　地球世界の課題」のうち、（１）では政治を、（２）では経済を、（３）では科学技術を取り扱う。

特色1　因果関係を丁寧に記した、理解しやすい「本文記述」

- ●歴史の流れや社会構造が理解しやすい本文記述
- ●世界史の大きな流れがわかる本文記述

本冊子 p.6-9

特色2　文化と社会のつながりがわかる「文化から見る当時の社会」

- ●文化を生んだ社会背景まで丁寧に記した本文記述
- ●本文と関連づけることで、文化と社会についての理解がさらに深まる資料群

本冊子 p.10-13

特色3　世界全体のつながりがわかる「結びつく世界」

- ●ネットワーク論をベースに展開。地域間の結びつきがわかる前近代史
- ●世界システム論をベースに展開。世界のつながりを構造化して理解できる近現代史

本冊子 p.14-17

特色4　探究する力が身につく「探究TRY」「読み解き」

- ●資料読解を通じて思考力・判断力・表現力を養う特設「探究 TRY」
- ●各種資料から、資料読解の技能を養う「読み解き」の問い

本冊子 p.18-21

特色5　理解がさらに深まる「紙面の三段構成」

- ●歴史の流れがつかみやすい要約文・本文・側注の三段構成
- ●学習場面に応じて さまざまな活用ができる要約文と側注

本冊子 p.22-25

その他の特色・本文執筆者紹介

本冊子 p.26-31

QRコンテンツ・関連教材

本冊子 p.32-35

全体構成 世界全体のつながりを　意識しながら学べる構成

●諸地域の通史と同時代史「結びつく世界」をバランスよく配置

結びつく世界　同時代の視点から各時代における諸地域のつながりを記述した特設ページ。全12箇所設置。➡本冊子p.14-17で解説

●本文ページでは諸地域の通史を、「結びつく世界」では同時代史を学べる構成。
●資料読解の特設として「探究TRY」を設置。➡本冊子p.18-19で解説
●「文化から見る当時の社会」、「SDGsを考える世界史」など、各種コーナーが充実。➡本冊子p.10-13やp.28-30で解説

もくじ

世界地図(世界の自然環境)，世界史の舞台 …… 巻頭1
もくじ・本書の使い方 …… 巻頭3
はじめに …… 4

1部　世界史へのまなざし …… 5
1章　地球環境からみる人類の歴史 …… 6
2章　日常生活からみる世界の歴史
家族の形態の変化と歴史 …… 10
感染症への対応の歴史 …… 12

2部　諸地域の歴史的特質の形成 …… 14
複数の資料を読み解いて問いを表現しよう …… 15
序章　古代文明の歴史的特質 …… 16
1章　東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質
1節　中華文明の形成 …… 21
2節　秦漢帝国と東アジア …… 26
3節　中央ユーラシアと遊牧国家 …… 30
結びつく世界　1～2世紀　諸地域を結ぶ「陸の道」と「海の道」 …… 34
4節　遊牧帝国の興亡と移動 …… 35
5節　ユーラシアの変動と東アジア …… 38
探究TRY　ユーラシア東部の国際関係 …… 46
2章　南アジアと東南アジアの歴史的特質
1節　南アジアの文明と国家形成 …… 48
2節　東南アジアの社会と国家形成 …… 54
3章　西アジアと地中海周辺の歴史的特質
1節　オリエント文明の興亡 …… 57
2節　地中海周辺の国家形成 …… 64
3節　地中海周辺と西アジアの帝国 …… 72
探究TRY　古代ローマと世界帝国 …… 82
結びつく世界　3～5世紀　ユーラシアの再編と交易ネットワーク …… 84
4節　ヨーロッパへ広がるキリスト教 …… 85
5節　イスラームの誕生 …… 93
結びつく世界　8～9世紀　イスラーム=ネットワークの形成 …… 99

3部　諸地域の交流・再編 …… 100
複数の資料を読み解いて問いを表現しよう …… 101
1章　ユーラシア大交流圏の成立
1節　イスラーム世界の拡大 …… 102
2節　ヨーロッパ封建社会の展開 …… 110
3節　東アジア諸地域の成長と自立 …… 122
結びつく世界　10～12世紀　「海の道」の活性化 …… 128
4節　ユーラシア大帝国の出現 …… 129
結びつく世界　13～14世紀　ユーラシア大交流圏の成立と危機 …… 134
2章　アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出
1節　明の国際秩序と東・東南アジア …… 135
2節　世界帝国清とアジア諸国の成熟 …… 144
3節　スペインとポルトガルの進出 …… 151
結びつく世界　16世紀　「世界の一体化」の始まり …… 155
探究TRY　銀にみる世界の一体化 …… 156
4節　イスラーム世界の成熟 …… 158
3章　主権国家体制の成立と交易の拡大
1節　ルネサンスと宗教改革 …… 165
2節　主権国家の形成と「17世紀の危機」 …… 171
3節　東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 …… 181
4節　イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 …… 187
結びつく世界　17～18世紀　「17世紀の危機」とその後の諸地域の発展 …… 190

4部　諸地域の結合・変容 …… 192
複数の資料を読み解いて問いを表現しよう …… 193
1章　環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生
1節　世界で最初の工業化 …… 194
2節　アメリカの独立 …… 197
3節　フランス革命と国民国家の誕生 …… 199
4節　ラテンアメリカへの革命の波及 …… 205
2章　イギリスの覇権と欧米の国民国家建設
1節　イギリスの覇権と自由主義 …… 206
探究TRY　工業化による世界の変化 …… 209
結びつく世界　19世紀　イギリスの覇権と世界システム …… 211
2節　ヨーロッパに広がる国民国家 …… 213
3節　アメリカ合衆国の拡大と国家統合 …… 222
3章　世界の一体化の進展とアジアの変容
1節　イスラーム王朝の解体と変容 …… 225
2節　南・東南アジアの変容 …… 231
3節　東アジア諸国の模索と変容 …… 236
4章　世界の一体化の完成とその影響
1節　帝国主義と世界分割競争 …… 243
結びつく世界　19世紀後半～20世紀初頭　世界大戦前夜の世界システム …… 257
2節　アジア知識人による体制改革の試み …… 258
探究TRY　国民と国民国家の誕生 …… 266
5章　世界大戦の時代
1節　第一次世界大戦と社会主義革命 …… 268
2節　第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 …… 277
3節　大衆社会の到来とファシズムの出現 …… 286
4節　第二次世界大戦とその惨禍 …… 294
探究TRY　「普通の人々」とナチズム …… 302
結びつく世界　20世紀前半　二つの世界大戦と資本主義の変容 …… 304
6章　戦後の国際秩序と冷戦 …… 305

5部　地球世界の課題 …… 312
1章　冷戦の展開と平和の模索
1節　集団安全保障と冷戦の展開 …… 313
2節　多極化の始まり …… 316
3節　新しい国際秩序を求めて …… 323
2章　グローバル化する国際経済とその課題
1節　冷戦下の経済秩序と格差 …… 328
結びつく世界　20世紀後半　アメリカの覇権とその変容 …… 338
2節　グローバル経済の光と影 …… 339
3章　情報と科学技術によって結びつく世界 …… 343
結びつく世界　現代　世界システムの変容とグローバル化の行方 …… 349
4章　地球世界の課題の探究 …… 350

さくいん …… 352
世界地図(世界の国々)，SDGsを考える世界史 …… 巻末2

1部
探究学習の導入となる部。
地球史から先史時代までと、自身と世界史のつながりについて学習する。

2部
歴史時代の始まりから、10世紀ごろまでを扱う部。
諸地域の歴史的特質と、世界のゆるやかなつながりを学習する。

3部
10世紀ごろから、18世紀ごろまでを扱う部。
諸地域の交流・再編により、世界全体がつながっていく流れを学習する。

4部
18世紀後半から、20世紀半ばまでを扱う部。
歴史総合「近代化と私たち」「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の範囲にあたる時代をさらに深める。工業化、国民国家形成、帝国主義などにより諸地域がより深く結合・変容し、第二次世界大戦で一定の帰結を見るまでを学習する。

5部
20世紀半ばから、現代までを扱う部。
歴史総合「グローバル化と私たち」の範囲にあたる時代をさらに深める。政治・経済・科学技術の3つの視点から、これまでの歴史の帰結やそれらが生んださまざまな課題などについて学習する。

Key Word

民族 …… 9
文化と文明 …… 16
中華 …… 25
皇帝(中国) …… 26
冊封と朝貢 …… 29
遊牧国家 …… 31
世界帝国 …… 63
市民(ギリシア・ローマ) …… 65
共和政と民主政 …… 72
主権国家 …… 171
重商主義 …… 171
立憲君主政(制) …… 180
資本・資本家 …… 196
ブルジョワジー …… 199
国民国家 …… 204
ナショナリズム …… 204
自由主義思想 …… 206
社会主義 …… 216
直轄領と保護領・保護国 …… 234
帝国主義 …… 246
列強 …… 246
民族自決 …… 273
大衆社会 …… 286
債務国・債権国・借款 …… 286
中間層 …… 290
ファシズム …… 291
全体主義 …… 293
グローバル化 …… 339

SDGsを考える世界史

気候変動と自然災害 …… 7
古代の森林破壊 …… 61
奴隷貿易と荒廃するアフリカ …… 189
奴隷貿易の廃止 …… 207
パリ大改造と都市計画 …… 217
赤十字の誕生 …… 219
ビスマルクの社会保険制度 …… 249
女性の社会進出と選挙権運動 …… 287
ヴァイマル憲法と福祉国家の原点 …… 288
国境を越える取り組み …… 305
今なお続く黒人差別問題 …… 320
紛争による難民の増加 …… 326
イスラーム過激派による抑圧と女性が教育を受ける権利 …… 326
ソ連における国営化と集団化の欠陥 …… 328
南北問題は正の取り組み …… 329
オリンピック・万博とインフラ整備 …… 334
気候変動・自然災害に対する取り組み …… 346
基本的人権としてのジェンダー(社会的性差)平等 …… 348

ケーススタディ　現代の諸課題を考える

アフリカの民族アイデンティティに介入する外国勢力 …… 317
冷戦後に起こった紛争①～クリム(クリミア)半島を事例に …… 324
冷戦後に起こった紛争②～アフガニスタンを事例に …… 325
ポスト植民地時代における二つの経験 …… 337
国際的な影響力を強める中国 …… 341
移民と地域社会の関わり …… 342
サブカルチャー作品にみる「冷戦と核エネルギー」 …… 344
サブカルチャー作品にみる「AI・VRと人間の関わり」 …… 345

文化から見る当時の社会

儒家の思想と後世への影響 …… 24
法家の思想と秦の統治 …… 25
国際色豊かな唐の文化 …… 42
アジア各地に広まる文化 …… 43
古代オリンピックにみるギリシア社会 …… 70
ヘレニズム哲学と芸術 …… 71
ローマの都市文化の広がり …… 76-77
イスラーム世界の都市文化と交易 …… 108
イスラーム世界で発達した学問 …… 109
中世ヨーロッパとキリスト教 …… 115
教会建築と信仰 …… 116
絵巻・挿絵から読み解く明代の社会 …… 140
イエズス会宣教師が明に伝えた世界 …… 141
ヒューマニズムとルネサンス …… 165
キリスト教とルネサンス …… 166-167
華麗な宮廷文化の隆盛と市民文化の芽生え …… 184-185
さまざまな思想と社会への影響 …… 186
自由主義とナショナリズムに影響を与えたロマン主義 …… 215
科学だけではなく社会に影響を与えた進化論 …… 244
二つのジャンルの絵画に描かれたフランス社会 …… 245
チャップリンとその作品からみる大量生産・消費社会 …… 289

特色1 因果関係を丁寧に記した、理解しやすい「本文記述」

●歴史の流れや社会構造が理解しやすい本文記述

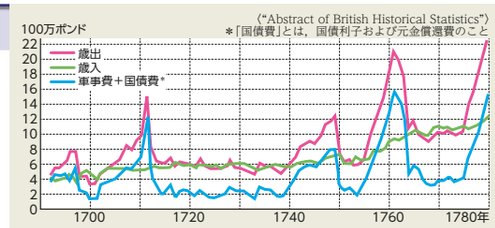
●歴史事象の因果関係を丁寧に記述しているので、歴史の流れや社会構造がよくわかる。

例）３部３章４節　イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易

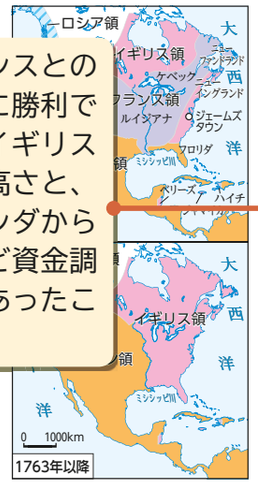
⬇教科書 p.188-189

財政軍事国家と国債

イギリスでは財政革命によって税収を確実にし，財政への信頼が高まったことを背景に，公債を金利の安定した国債に統一した。この国債による資金調達が18世紀におけるイギリスの戦争遂行を可能にし，人口規模や経済力において勝るフランスとの戦争に勝利した。その反面，税収のほとんどが軍事費や国債の償還にあてられ，民事にあてる予算が大幅に縮減された。さらに19世紀初頭には過大な累積債務のために，破綻寸前となったが，産業革命（→p.194）の本格化による経済成長によって危機を脱した。



↑1 18世紀のイギリスの歳出・歳入と軍事費　読み解き 軍事費が増大している時期に生じた戦争は何であったか，p.187 1 と照らし合わせて考えてみよう。



↑2 北米での勢力争い　パリ条約により，北米のフランス領がいったん消滅した。ミシシッピ川以西のルイジアナはスペインに譲渡されたが，1800年にフランスに返還された。

イギリスの勝利と各国への影響

イギリスは財政改革を成し遂げて，対仏抗争で優位に立った。一方，英仏の抗争はヨーロッパ各国に財政問題を引き起こした。

イギリスでは名誉革命の後，1694年にイングランド銀行が創設され，議会の承認を得て政府が発行する借用証書（国債）を発行し，これが金融市場で取り引きされるようになった（**財政革命**）。

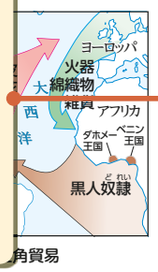
議会政治が確立し，徴税の権利をもつ議会が元利を保証していたイギリス国債の信用は高かった。そのため，17世紀の最富裕国であったオランダ（→p.173）では，豊かな資金をもっていた人々がイギリスの国債を購入したため，オランダの資金がイギリスに流れることになった。

イギリスが，相次ぐフランスとの戦争に勝利したのは，この財政革命によって，フランスより戦争の費用を集める能力が高まったためであった。大量の国債を発行したイギリス政府は，国民には重い税を課すことにもなった。それでもフランスとの戦争に次々と勝利し，植民地を拡大していったため，議会が承認した税に対しては，国民の不満は爆発しなかった。

第２次英仏百年戦争のなかの七年戦争は，当時としては大戦争であった。このため，戦勝国のイギリスを含めて，参戦国はいずれも深刻な財政危機に見舞われることになった。植民地に負担を分担させようとしたイギリスやスペインでは，白人の定住者による独立運動が起こり（アメリカ独立戦争（→p.198）・ラテンアメリカの独立（→p.205）），帝国の再編をせざるをえなくなった。また多くの植民地を失ったフランスでは，本国の財政が危機的な状況となり，フランス革命の引き金となった（→p.200）。

大西洋三角貿易の展開

アメリカの作物，ヨーロッパの軽工業品，アフリカの黒人奴隷を取り扱う大西洋三角貿易は，イギリス産業革命の準備をする一方で，アフリカを荒廃させた。



…角貿易

スペインはラテンアメリカに広大な植民地を保有しながら，奴隷供給地のアフリカ西海岸に拠点がなく，植民地で使役する奴隷を購入するため，外国商人に奴隷供給の特権を認めていた。利益が大きかったこの特権は，18世紀の諸戦争の原因の一つにもなっていた（→p.153）。

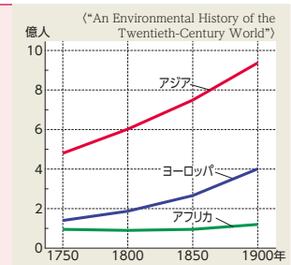
一方，**奴隷貿易**を盛んに行ったのは，西アフリカに拠点をもったポルトガル・イギリス・フランスであった。イギリスのリヴァプール，フランスのナントなどから，火器や綿織物を積んだ船が，ベニン王国（Benin 13世紀～18世紀）など西アフリカの黒人国家に向かい，そこで積み荷と奴隷が交換された。連行されたアフリカ人の奴隷は数千万人に上り，アフリカ社会は深刻な打撃を受けた。❶

アフリカからカリブ海やアメリカ大陸へ向かう航海は，「中間航路」（SDGs）とよばれたが，この航海は無理に奴隷を詰め込んだり，水不足や感染症が生じたりしたため，死亡率がかなり高かった。運ばれた奴隷は，カリブ海やアメリカ大陸で砂糖や たばこ と交換され，ヨーロッパへそれらの世界商品が送られた。**大西洋三角貿易**として知られるこの一連の貿易で，ヨーロッパ各国は大きな利益を得た。特にイギリスは，この奴隷貿易を基盤として，カリブ海と北アメリカ大陸を核とする広大な世界帝国を完成したため，膨大な貿易の利益を得ることができた。またカリブ海と北アメリカ大陸はイギリス製品の市場となり，一方で綿花のような原料の供給地ともなった。こうした国際的なつながりは，イギリスで世界最初の産業革命が起こる要因の一つとなった。❷ 人道的な立場から奴隷制度への批判が高まると，イギリスでは19世紀初頭に奴隷貿易が禁止され（→p.207），その後，各国の植民地は奴隷制度の廃止に向かった。

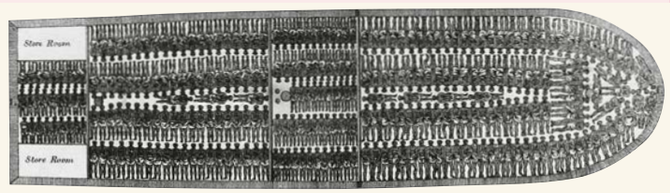
SDGsを考える世界史　奴隷貿易と荒廃するアフリカ

ポルトガル人・イギリス人・フランス人などが熱心に行った大西洋奴隷貿易は，全体で数千万人のアフリカ人を，大量の労働力を求めていたアメリカやカリブ海の植民地に奴隷として送り込んだ。それは，ヨーロッパ人の商人やプランテーション経営者にとっては，大きな利益の源であった。しかし，奴隷とされた本人やその家族にとっては悲劇であり，働き盛りの人々を連れ去られたアフリカ社会にも，深刻な打撃となった。そればかりか，アフリカ西海岸にはヨーロッパ人から手に入れた武器を用いて，奥地で奴隷狩りを行い，ヨーロッパ人に売り渡すことを仕事とするダホメーやベニンなどの黒人国家も現れた。こうしたゆがんだ発展は，アフリカの成長を妨げる原因となった。

奴隷が導入されたアメリカなどでは，奴隷解放（→p.224），公民権運動（→p.320）の後も，いまだに黒人への差別的な対応が残る。貧困率は白人より高く，教育水準も低いのが現状である。



↑4 三大陸の人口変化



➜5 奴隷船の内部全体図

❶ **アジア人やアフリカ人へのまなざし**　ヨーロッパ人は，奴隷貿易を行って，奴隷を物のように扱った。しかし一方で，ヨーロッパの知識人の間には，ヨーロッパの近代文明への批判として，アフリカ人やアメリカ先住民，アジア人こそが，けがれのない「高貴な未開人」だとする見方も生まれた。

❷ **イギリスの帝国**　重商主義政策は，原料の供給源や製品の市場などの獲得に役立ち，産業革命の前提となる。そのためこのころ，国とその植民地は，「帝国」ともよばれる。

4節のまとめ

イギリスがヨーロッパの抗争に勝利した最も大きな理由は何か，あなたの考えを説明しよう。

3章の振り返り

17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何か，あなたの考えを説明しよう。

イギリスがフランスとの植民地獲得競争に勝利できた背景には、イギリス国債の信用度の高さと、それによるオランダからの資金の流入など資金調達能力の高さがあったことがわかる。

七年戦争の結果として各国は財政危機に直面し、その負担を植民地や国内に押しつけたことが、アメリカの独立戦争やフランス革命につながっていったことがわかる。

大西洋三角貿易で得た膨大な利益は、イギリスで産業革命が起こる一因になったことがわかる。

特色1 因果関係を丁寧に記した、理解しやすい「本文記述」

●世界史の大きな流れがわかる本文記述

●地域を超えた歴史事象のつながりがわかり、世界史の大きな流れが理解できる。

例）３部２章１節　明の国際秩序と東・東南アジア

➡明・日本・琉球・東南アジア・満洲の歴史を、相互に関連づけて理解できる。

⬇教科書 p.135　⬇教科書 p.136-137　⬇教科書 p.138-139　⬇教科書 p.140-141　⬇教科書 p.142-143

14 世紀の東・東南アジア

明は、倭寇を抑えるために対外関係を国家間に限定する海禁＝朝貢体制をしいたことがわかる。その結果、日本は朝貢・冊封を受け入れて勘合貿易に踏み切らざるを得なかったことがわかる。

⬇教科書 p.136-137 より

宋・元代に海上貿易が発展していた東シナ海では，「14世紀の危機」のなかで日本で鎌倉幕府が倒れ南北朝の動乱が広がると，海商や武士団などの勢力が自立的な活動を強め，朝鮮半島・中国沿海部で襲撃・略奪行為を働くようになった。彼らは**倭寇**（前期倭寇）とよばれ，高麗・元の沿岸住民や武装勢力も合流して，諸国の政府を苦しめた。

明が成立すると，洪武帝は倭寇を力で抑え込む方針をとり，沿海部の治安維持のために民間の海上貿易を禁止し（**海禁**），対外関係を国家間の朝貢・冊封関係に限定するという，厳しい対外関係管理体制をしいた（**海禁=朝貢体制**）。これにより，明と貿易するには朝貢・冊封を受け入れなければならなくなったため，長い間朝貢を避けていた日本も，室町幕府の足利義満が朝貢貿易に踏み切った（**勘合貿易**）。

15 世紀～16 世紀の東・東南アジア

海禁＝朝貢体制のなかで、中継貿易で琉球・マラッカ王国が繁栄したことがわかる。また、明では著しい国内経済の回復や国際商業の活発化の結果、経済発展が見られたことがわかる。

⬇教科書 p.137-138 より

明への朝貢には，国ごとに間隔が定められるなど，制限が多かったが，15世紀には，アジア海域の各地で，朝貢貿易のしくみを利用する動きが広がった。**琉球**は，明の冊封を受けたうえにほぼ無制限の朝貢貿易を許され，福建商人などのネットワークを利用しながら，東南アジア・日本などの商品を集めて明に朝貢し，手に入れた中国商品を各国に運んだ。併せて，東南アジアと朝鮮・日本などを結ぶ中継貿易も行った。

一方，東南アジアでは15世紀に，**マラッカ王国**が急成長した。マラッカは，鄭和の船団の寄港地を提供するほか，国王みずから明に赴くことで，明の優遇を勝ちとり，マラッカ海峡を中心とするインド洋・東南アジア海域の交易ネットワークと，明や琉球を結びつける役割を果たした。

⬇教科書 p.139 より

15世紀末ごろから世界の気候が温暖化に向かうと，明においても農業生産の向上と手工業・商業の発展がみられ，さらに「大航海時代」の国際的な商業の活発化と結びついて，経済が著しい伸びをみせた。

16 世紀～17 世紀半ばの東・東南アジア

国際貿易の発展が、南北で貿易統制への対抗（北虜南倭）につながったことがわかる。1570 年前後に明の統制が緩和された結果、周縁部で軍事 - 商業勢力が台頭したことがわかる。

⬇教科書 p.141-142 より

16世紀に国際貿易が盛んになると，明の周縁部では，規制を破って貿易の利益を得ようとする動きが活発化した。北方からはモンゴルのアルタン（Altan 1507～82）が侵入を繰り返し，南方では海禁を破って海上での私貿易や海賊活動が再び激化し（**後期倭寇**），南北からの圧力は1550年代に頂点に達した。これらは単なる略奪行動ではなく，明の海禁=朝貢体制に対抗して貿易を求める南北共通の動きであり，国際貿易の主導権をめぐる抗争であった。対応を迫られた明は，1570年前後についに政策を転換し，南方では海禁を緩めて日本以外との民間貿易（**互市**）を認め，北方でもアルタンと講和して国境貿易に応じた。

このような貿易の活発化によって政府の統制が崩れると，利益を求めて競争も激化し，そのなかから軍事と商業が結びついた強力な新興勢力が台頭した。北方では，アルタン王家に加えて東北の女真人の間でも統合が進み，また東シナ海でも海上勢力が再編されていった。日本では，強固な家臣団を編制し領域支配を広げた戦国大名が登場し，織田信長（1534～82）・豊臣秀吉（1537～98）が鉄砲をとり入れて貿易港・銀山を掌握し全国制覇を進めた。

文化と社会のつながりがわかる「文化から見る当時の社会」

●文化を生んだ社会背景まで丁寧に記した本文記述

●本文で、文化を生んだ社会背景まで丁寧に解説。
●なぜそのような文化が生まれたのかがわかり、文化史の理解が深まる。

⬇教科書 p.42-43

本文と関連づける形で、文化史の資料を配置。「読み解き」の問いに取り組むことで、文化への理解がさらに深まる。（資料については**本冊子p.12-13**で解説）

文化から見る当時の社会

国際色豊かな唐の文化

唐の時代には，南北の統合と西域文化の流入により，国際色豊かな文化が形づくられた。さまざまな資料から，唐の文化の国際性を見てみよう。

↑1 **外出する宮廷の人々**　女性たちの間では，胡服とよばれる，筒袖で体にぴったり沿う西方趣味の服装が流行した。胡とは，当時ソグドを指した。

↑3 **唐三彩**　前面の人物が持つ弦楽器は琵琶とよばれ，日本にも伝わった。

←2 **発掘された小麦粉食品**　小麦の製粉技術は西方由来である。小麦粉を使った食品は漢代に現れ，「胡餅」「胡食」とよばれた。唐代には民衆にとっても日常的な食物となっていた。

史料 玄宗時代の長安の流行

宮中音楽では胡曲が好まれ，貴人の食事はことごとく胡食が供され，身分のある男性も女性も皆胡服を着るまでになった。　（『旧唐書』より要約）

読み解き 史料に記された「胡曲」「胡食」「胡服」を，図1～3からそれぞれ選ぼう。また，図1～3や史料を根拠に，交通の発展は文化に対してどのような影響を及ぼしたのか考えよう。

A 中央ユーラシア　B 東アジア

❶ **世界宗教の伝播**　この時期，特定の民族や地域を超えて信仰される世界宗教が広まった。仏教に加え，新たに西方からマニ教・ゾロアスター教（祆教，→p.63）・ネストリウス派キリスト教（景教，→p.79）・イスラーム（後に回教とよばれる，→p.93）が伝来した。

儒教・仏教・道教と中国社会

仏教は南北朝から隋唐にかけて王室・貴族に広まったが，外来宗教であることからたびたび廃仏事件が起こった。一方で仏教のもつ整然とした経典・教義・教団組織は，儒教・道教にも体系化，組織化を促した。やがて中国社会では，儒教を公認の政治思想としつつ，道教を信じ仏教も学ぶというあり方が定着していった。

して，魏・晋以来試みられてきた王朝による土地管理と大土地所有制限という方針は放棄され，貧富の格差を前提としたうえで徴税・兵力調達を行う体制に切り替わり，以後の王朝にも受け継がれた。

南北文化の融合　晋唐文化

魏・晋以来，江南の優雅な文化と華北の質実な文化の二つの流れが成長し，隋・唐で融合した。仏教をはじめ西域文化も流入し，唐代には国際色豊かな文化が栄えた。

魏・晋代に始まり，南朝・北朝で発展し隋・唐に至る文化の流れを晋唐文化という。この一連の文化は，朝貢使節や僧侶・商人の往来を通して各地に広がっていき，日本を含む東アジア共通の文化的土壌となった。

魏・晋以降，中央ユーラシアに連なる華北では，質実剛健な遊牧系政権の下で，仏教をはじめとする外来文化が漢代までの文化と融合した。また，緑豊かな江南では貴族中心の優雅な六朝文化が栄え，世俗を離れた趣味や幅広い教養が貴族たちに好まれ，清談とよばれる哲学的談議が流行した。東晋の陶潛（陶淵明）の詩や王羲之の書，顧愷之の絵画は，当時にとどまらず後世まで広く愛された。

この二つの流れが南北の統合と大運河によって結びつき，さらにソグド文化やインド系・イラン系文化などの入り混じった西域文化が流入・融合したのが，隋唐の文化である。主に華北で発展した漢訳仏教や仏像，江南で発達した詩文や書・画は，遊牧民と漢人，華北と江南といった違いを超えて広く受け入れられ，さらに時代や地域をも超えて後世まで重んじられた。李白や杜甫，白居易（白楽天）らの唐詩は，中国にとどまらず日本をはじめ漢字文化圏共通の教養として広く親しまれた。

多様な文化に寛容な遊牧民が主導権を握っていたこの時代は，さまざまな宗教・思想も活発に展開した。なかでも紀元前後に伝来した仏教は，4世紀以降，中央アジア出身の僧仏図澄・鳩摩羅什によって華北の諸国で盛んになり，江南でも貴族たちに広まった。北朝から唐にかけて，巨大な石窟寺院がつくられるなど仏教は国家的保護を受けて栄え，仏典の伝来・翻訳が進んで天台宗・禅宗・浄土宗などの諸宗派が成立した。一方，外来の仏教の普及は在来の民間信仰や儒教を刺激し，老荘思想や神仙思想などを取り入れた道教が成立して，唐代には王朝の保護を受けた。儒教でも経典の整理・研究が進み，唐代に太宗の命で注釈書『五経正義』がつくられ，科挙試験のための公式解釈となった。

やがて唐代後半になると，このような国際色豊かで普遍性の高い文化から，古文の復興を主張した韓愈・柳宗元らのように，中国内地の風土に根ざし，漢代に模範を求める動きが盛んになった。

魏晋以来の民族（北・南）の融合を背景に、新しい文化が生まれたことがわかる。また、隋唐が成立した結果、西域文化が流入し、文化の融合がさらに進んだことがわかる。

アジア各地に広まる文化

晋唐文化は，漢字文化圏共通の文化的土壌となった。資料から，日本でどのように唐の文化が受容されていたのか見てみよう。

➔4 **白居易の唐詩**　唐の詩人である白居易が，長安から地方へ左遷され，廬山のふもとに草庵を建てたときによんだ詩。

日高く睡り足るも猶お起くるに慵し
小閣の愛寺の鐘は枕を欹てて聴き
遺香炉峰の雪は簾を撥ねて看る
匡廬は便ち是れ名を逃るる地
司馬は仍お老いを送る官為り
心泰かに身寧きは是れ帰処
故郷は独り長安に在る可けんや

①小部屋　②布団　③廬山のこと　④役職名
〈川合康三書き下し〉

↓5 **『枕草子』**　日本の平安時代の作品。藤原道隆の娘，中宮定子に仕える清少納言が，宮廷生活を記した随筆。

史料『枕草子』（1000年ごろ）

雪のたいそう高くつもった日，…話をしていると，宮さまが，「少納言よ，香炉峰の雪はどんなふうかしら。」とおっしゃるので，格子をあげ，みすを高くまきあげるとおわらいになった。「…白氏文集の詩は知っていても，なかなか，あなたのように機転はききませんわ。やっぱりこちらの宮さまにお仕えなさるにふさわしい方よ。」と，みんなにいわれた。　（大庭みな子訳）

読み解き 史料4の漢詩のうち，史料5と関係する箇所に線を引こう。また，史料4は日本の貴族にとってどのような存在だったのか，考えよう。

魏晋南北朝時代		
文芸	詩文	●田園詩人…陶潛（陶淵明）（東晋）『帰去来辞』 ●四六駢儷体（4字・6字の対句・韻を用いた華麗な文章）が流行…昭明太子（梁）『文選』を編集
	書	王羲之（東晋）…書聖　楷書・行書・草書を芸術化
	画	顧愷之（東晋）…画聖「女史箴図」
宗教	仏教	●渡来僧　仏図澄（ブドチンガ）…亀茲（クチャ）出身 鳩摩羅什（クマラジーヴァ）…仏典漢訳 達磨（ダルマ）…インド僧，禅宗の始祖 ●渡印僧…法顕（東晋）『仏国記』 ●石窟寺院…敦煌（莫高窟）・雲崗・竜門
	道教	神仙思想・儒家・道家・仏教・民間信仰を取り入れた宗教 寇謙之（北魏）が道教教団を確立，北魏の保護を受ける
思想		清談が流行…「竹林の七賢」
隋唐時代		
文芸	詩文	●唐詩…李白・杜甫・王維・白居易 ●古文（漢代の文体）の復興…韓愈・柳宗元
	書	欧陽詢・褚遂良・顔真卿
	画	閻立本…人物画　呉道玄…山水画
宗教	仏教	●宮廷・貴族の保護で隆盛 ●天台宗・禅宗・浄土宗など宗派が成立 ●渡印僧…玄奘『大唐西域記』，義浄『南海寄帰内法伝』
	道教	歴代皇帝の保護により発展
	外来宗教	マニ教・ゾロアスター教（祆教）・ネストリウス派キリスト教（景教）・イスラーム
	儒学	諸解釈（訓詁学）を整理する動き…孔穎達『五経正義』
その他		【工芸】唐三彩…緑・褐色・白などの彩色をした陶器

↑6 **晋唐文化**

魏晋から隋唐にかけて、他文化にも寛容な遊牧民が一貫して主導権を握っていたために、当時は多様な宗教・思想が展開したことがわかる。

↑7 **顔真卿の書**　東アジア各地で広く模範として重んじられた。

❷ **求法僧の取経の旅**　東晋の僧法顕は，仏典を求めて陸路でインドまで赴き，海路で帰国して『仏国記』を著した。また，唐代には玄奘が陸路，義浄が海路でインドを訪れ，経典を持ち帰った（→p.40 2）。

問い 晋唐文化について，魏・晋代から唐代までの文化の流れを要約しよう。

仏教が普及した結果、在来の思想が刺激され、道教の成立や儒教の体系化が起こり、中国で三つの宗教が共存する形が生まれたことがわかる。

A 中央ユーラシア　B 東アジア

特色2 文化と社会のつながりがわかる「文化から見る当時の社会」

●本文と関連づけることで、文化と社会についての理解がさらに深まる資料群

●本文と関連づける形で、ページ上部に文化史の資料を配置。
●「読み解き」の問いに取り組むことで、文化に表れている当時の社会の様相まで理解できる。

⬇教科書 p.244-245

文化から見る当時の社会

科学だけではなく社会に影響を与えた進化論

19世紀後半に科学的見地から『種の起源』が書かれ，当時の社会とそれ以降の人々の考え方に大きな影響を与えた。『種の起源』とそれに対する当時の批判や，進化論に影響を受けた社会進化論を読み解き，当時の社会の様相を見てみよう。

史料 ダーウィン『種の起源』(進化論　1859年)

…たとえわずかなものであれ，他の個体よりも有利な変異を備えた個体は，生き延びて同じ性質の子どもを残す可能性が大きいと考えられないだろうか。その一方で，少しでも不利な変異は確実に排除されることもまた，確かなような気がする。

このように，有利な変異は保存され，不利な変異は排除される過程を，私は自然淘汰と呼んでいる。

〈渡辺政隆訳〉

史料 『社会進化論』(キッド著 1894年)

…差異は，ヨーロッパの進歩的諸民族と非ヨーロッパ諸民族とを比較した場合にいっそう顕著である。合衆国や西インドにおける不精で不用心で呑気な黒人の存在を，その黒人が住む場を支配する民族の存在と比較する時，その差異はいっそう明瞭となる。

〈松永友有訳〉

↑1 ダーウィンの進化論を風刺する絵(1874年)

読み解き 当時，進化論が批判されたのはなぜか，図1や本文をもとに考えよう。また，後に社会進化論は進化論を用いてどのような主張をしたのだろうか。

文学	写実主義・自然主義	スタンダール(仏)『赤と黒』　バルザック(仏)『人間喜劇』 フロベール(仏)『ボヴァリー夫人』　ディケンズ(英)『二都物語』 トゥルゲーネフ(露)『父と子』　ドストエフスキー(露)『罪と罰』 トルストイ(露)『戦争と平和』　ゾラ(仏)『居酒屋』 モーパッサン(仏)『女の一生』　イプセン(ノルウェー)『人形の家』
	耽美主義	ボードレール(仏)『悪の華』
	象徴主義	ヴェルレーヌ(仏)『秋の歌』
	SF	ヴェルヌ(仏)『海底二万里』 ウェルズ(英)『タイムマシン』
音楽	国民楽派	ドヴォルザーク(チェコ)『新世界より』
	印象派・象徴派	ドビュッシー(仏)『海』
美術	写実主義 自然主義	クールベ(仏)『オルナンの埋葬』 ミレー(仏)『落ち穂拾い』
	印象派	モネ(仏)『印象・日の出』 ルノワール(仏)『ムーラン=ド=ラ=ギャレット』
	ポスト印象派	セザンヌ(仏)『サント=ヴィクトワール山』 ゴーギャン(仏)『タヒチの女』　ゴッホ(蘭)『ひまわり』
	その他	マネ(仏)『草上の昼食』　彫刻　ロダン(仏)『考える人』
学術		ニーチェ(独)　哲学者　『ツァラトゥストラはかく語りき』 マルクス(独)　哲学・経済学者『共産党宣言』『資本論』 ミル(英)　哲学・経済学者　功利主義・自由主義を擁護 ランケ(独)　歴史家　近代歴史学の基礎をつくる ダーウィン(英)　博物学者　進化論『種の起源』

↑2 19世紀後半の文化

二つのジャンルの絵画に描かれたフランス社会

19世紀後半のヨーロッパ美術を牽引したのはフランスだった。写実主義・自然主義と印象派をそれぞれ代表する絵画を通して，当時のフランス民衆社会の様相を見てみよう。

↑4 ミレー作『落ち穂拾い』　第二帝政下(→p.217)の農村社会を描いている。聖書では，農地所有者に対して，穀物収穫時に生じる落ち穂は貧者のために捨て置くように記されていた。

〈オルセー美術館蔵 1857年ごろ 83cm×110cm〉

↑5 ルノワール作『ムーラン=ド=ラ=ギャレット』　普仏戦争敗北(→p.221)から5年後，パリ市内のダンスホールは，職人・労働者・商店員・女工たちで賑わっていた。

〈オルセー美術館蔵 1876年 131cm×175cm〉

読み解き 第二帝政下の農村社会の様子と，帝国主義時代の都市民衆生活の様子は，それぞれどのようだったと言えるだろうか。また，どのような要因で図5のような都市民衆生活が発達したのか，本文の記述も踏まえて考えよう。

「文学と絵画は、19世紀後半になると、職人・労働者・商店員・農民らにも身近になった」という本文記述と、農民や都市の民衆をテーマに描いた絵画資料とを関連づけることで、社会と文化の関係を具体的に理解できる。

19世紀後半の社会科学

自然科学が発展するにつれ，社会科学分野でも自然科学的思考への関心が高まった。進化論が提起され，従来の宗教観が揺さぶられた。

電気・電力		ファラデー(英)　電磁誘導の法則 マイヤー(独)・ヘルムホルツ(独)　エネルギー保存の法則 ジーメンス(独)　発電機とモーター エディソン(米)　電灯・蓄音機・映画
通信		モールス(米)　電信機 ベル(米)　電話機 マルコーニ(伊)　無線電信
交通		ダイムラー，ディーゼル(独)　エンジン ライト兄弟(米)　動力飛行機での初飛行に成功
その他		ノーベル(スウェーデン)　ダイナマイト レントゲン(独)　X(エックス)線 キュリー夫妻(仏・ポーランド)　ラジウム パストゥール(仏)　細菌学(ワクチン予防接種，殺菌法) コッホ(独)　細菌学(結核菌，ツベルクリン，コレラ菌)

↑3 19世紀自然科学の発見・発明

自然科学界でさまざまな法則が発見されたことは，社会科学にも影響を与えた。社会を考察するときに，統計資料を用いたり，何らかの法則を探求しようとしたりする機運が強まったのである。18世紀末に『人口論』を著し，貧困の原因を人口増加と食料生産の不均衡に求めたイギリスのマルサス(Malthus 1766～1834)がその先駆者だった。19世紀後半に，自然科学的思考を重視する傾向がますます強まり，イギリスの**ダーウィン**(Darwin 1809～82)が『**種の起源**』(1859年)のなかで唱えた**進化論**(史料 QR)が，宗教観と社会観に大きな影響を及ぼした。進化論を社会に流用したイギリスのスペンサー(Spencer 1820～1903)は「適者生存」論(1)(**社会進化論**)を唱え，これが1870年代に入ると，社会的弱者や，劣等とみなされた民族・人種への迫害を正当化する論理になっていった。(史料 ➡p.256)

歴史学の分野でも，史料批判による科学的研究方法が重視されるようになり，ここに**近代歴史学**が始まった。また，史料館の整備と史料集の刊行が各国で進み，ナショナリズムの風潮と相まって，「国民」の実在を前提にその成立・発展を叙述する国民史の流行につながった。一方で，ナショナリズムに批判的なマルクスが唱えた史的唯物論(➡p.216)(唯物史観)も，歴史学の発展に貢献した。

大衆が文化を支える新時代

芸術分野にも自然科学の影響が及んだ。印刷技術の進歩により，芸術が大衆の身近なものになると同時に，マスメディアの出現で大衆社会のきざしが見え始めた。

19世紀後半は，文学や絵画でも自然科学の影響が表れ，人物を客観的に描写しようとする**写実主義**(realism)が台頭した。写実主義をさらに推し進めた**自然主義**(naturalism)(4)の文学では，人物の行動を遺伝で説明するなど，科学的知見をとり入れる傾向が強まった。また，光に関する研究が深まるにつれて，光の変化を絵筆で表現しようとする画家たち(1)(**印象派**(impressionists))(5)が現れた。さらに，科学知識を応用するSF小説も誕生した。

これまで専ら貴族や上層ブルジョワジーのものだった文学と絵画は，19世紀後半になると，職人・労働者・商店員・農民らにも身近になった。(2)第2次産業革命の進展で国民全般の生活水準が向上したことや，科学技術の発展が印刷術にも及んだ結果，カラー印刷も含めて大量生産が可能になり，書籍や雑誌の価格が低下して，安価な大衆向け新聞も欧米各国で創刊されたためだった。新聞では連載小説が，雑誌では小説に加えて名画の複製画が人気を博した。

こうしたマスメディアの登場と，同時期に初等教育の義務化が進んで識字率が向上したことが相まって，マスコミュニケーションにより画一的な世論が形成される大衆社会へのきざしも，19世紀末に現れ始めた。(➡p.287)

❶ **新たな芸術運動**　写実主義・自然主義の隆盛に反発して，善悪の価値判断を避けて美を追求する耽美主義や，形式を軽視して暗示に富む表現を目指す象徴主義など，新しい芸術運動も同時に起きていた。

問い この時代に芽生えた，後の大衆社会をつくる要因について要約しよう。

本文から、進化論が社会観・宗教観にも深い影響を及ぼしたことがわかる。さらに、史料の『進化論』と『社会進化論』とを比較することで、本文の内容を具体的に理解できる。

大衆向けの書籍や雑誌、新聞が誕生した背景には、生活水準の向上や印刷技術の発展があったことがわかる。

●「文化から見る当時の社会」一覧(全12箇所)

ページ	本文の小見出し
24-25	諸子百家の思想と漢字文化
42-43	南北文化の融合　晋唐文化
69-71	古代ギリシアと ヘレニズムの文化と社会
76-77	地中海周辺に広がるローマ文化
107-109	都市に支えられたイスラーム文化 イスラームの学問と芸術
115-116	中世ヨーロッパの文化
140-141	明後期の社会と文化
165-168	ルネサンスの開花 ルネサンスと科学
184-186	華麗な宮廷文化の隆盛と 市民文化の芽生え
215-216	19 世紀前半の文化的潮流 ～ロマン主義
244-245	19 世紀後半の社会科学 大衆が文化を支える新時代
288-289	現代文化の芽生え (20 世紀前半の文化)

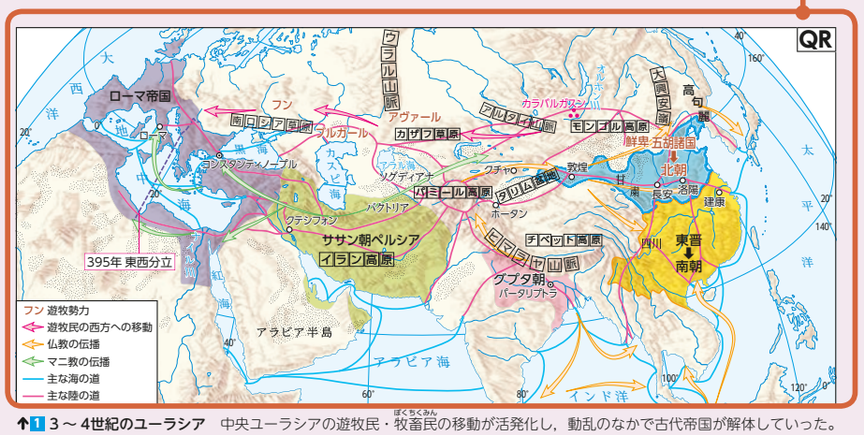
特色3 世界全体のつながりが わかる「結びつく世界」

●ネットワーク論をベースに展開。地域間の結びつきがわかる前近代史

●地域を超える結びつきの視点から世界史をみる特設を、全12箇所設置。
●前近代史は、ネットワーク論をベースに展開。
●地域間の結びつきを俯瞰することで、世界史への理解が深まる。

ページ上部に大きな世界地図を掲載。当時の地域間の結びつきを地図から具体的に確認できる。

⬇教科書 p.84



↑1 3～4世紀のユーラシア　中央ユーラシアの遊牧民・牧畜民の移動が活発化し，動乱のなかで古代帝国が解体していった。

結びつく世界 3～5世紀　ユーラシアの再編と交易ネットワーク

●「3世紀の危機」と民族大移動

3世紀，北半球の気候が急激に寒冷化し，ユーラシアの農耕地域では農業が大打撃を受け，各地の古代帝国に動揺が広がった。また内陸部では乾燥化が進んで牧草地が枯渇したため，遊牧民や牧畜民が周縁の農耕地域に進出していった。東方での鮮卑の南下・拡散や，西方における**フンの出現**と**ゲルマン人の大移動**はその表れであった。このような異文化集団の移動と定着が何波にもわたって起こるなかで，後漢や魏・晋の統一は崩れていき，ローマ帝国も混乱を深めて西ローマ帝国の滅亡に至る。

一方，遊牧民・牧畜民の移動と拡散は，古代帝国が栄えた地域に，牧畜やオアシス農法の伝播，世界宗教や学術・知識の拡散といった新しい刺激をもたらした。ユーラシアの「**陸の道**」は衰えたわけではなく，むしろその担い手であった遊牧勢力が各地に進出したことで，農耕地域もより深く交通ネットワークと結びついた。

「**3世紀の危機**」をきっかけとする政治・経済・社会にわたる変動は，数世紀をかけて，各地域の文明の再編と交流の緊密化を促すことになった。

●「海の道」と周辺部の国家形成

「**海の道**」は3世紀以降，ますます活況に向かった。3世紀から続いた中国の分裂の下で，江南に成立した諸王朝は，人口や国力で勝る北方の王朝に対抗するため，海上交易や南方への勢力拡大を推進した。南アジアでも同様に，インド南部での社会の発展と国家形成が進んだ。こうしたなか，日本列島を含む周辺地域の国家形成も進み，5世紀になると，**倭の五王**や東南アジア諸国が，さかんに南朝へ朝貢した。東南アジアから朝貢したのは，同時期に拡大していたインド洋での貿易・交流を通じて，インドの文明を取り入れて形成された諸国家であった。

●世界宗教の広がり

言語も生業も異なる人々が恒常的に接触することになったこの時代は，出身や習俗にかかわらず奉じることのできる信仰や規範が求められ，普遍性をもつ**世界宗教**がネットワークに沿って各地に広がった。中国・東南アジア・インドの間では，「海の道」を通じて仏僧やバラモンが往来するなど，インド洋の宗教ネットワークも広がった。**仏教**は魏晋南北朝時代の中国で受容され，とりわけ華北の遊牧系政権において，人々を統合し王権を正統化する役割を担った。西方では，**キリスト教**と**マニ教**が競い合いながらローマ帝国や西アジアに広まった。マニ教は，イスラームに取って代わられるまで，仏教・キリスト教と並ぶ世界宗教として各地で強い影響を与えた。

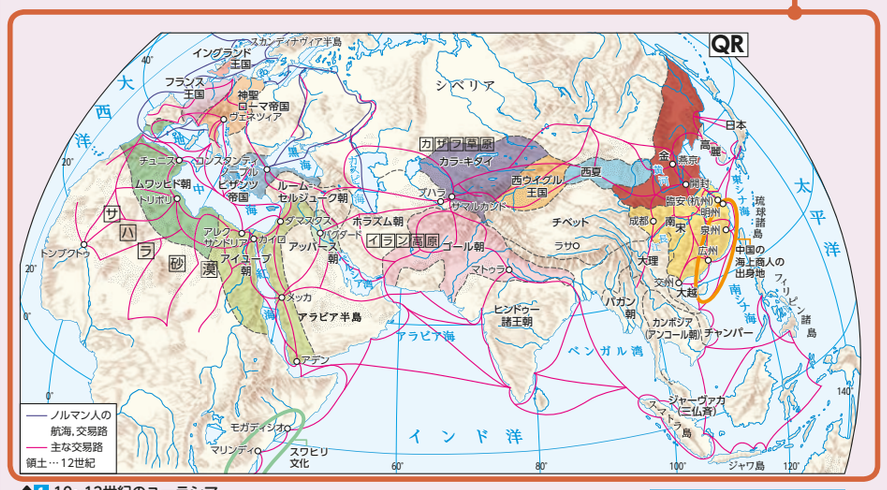
〈p.34　p.99〉

時代の特徴　3～5世紀は，環境の変化を背景としたユーラシア規模の民族移動によって，古代の世界帝国とその文明が解体・変容し，新たな文化や社会が出来上がっていく転換期であった。

「3世紀の危機」の結果、諸地域の再編と交流が促され、世界史は大きな変動期を迎えたことが理解できる。

前後の「結びつく世界」のページにリンクできる。

⬇教科書 p.128



↑1 10～12世紀のユーラシア

結びつく世界 10～12世紀　「海の道」の活性化

●イスラーム＝ネットワークと中国商人の海上進出

イスラーム世界では10世紀になると，カイロがネットワークの中心となり，インド洋や南シナ海でのムスリム商人の活動もますます活発化した。

同じ10世紀前後から，中国商人が，**羅針盤**や**ジャンク船**などの新技術も用いながら，南シナ海をはじめとする諸地域への進出を開始した。中国経済の重心が黄河中流域から長江下流域（江南）に移動したことや，宋代以降の全国的な経済成長も，この動きを後押しした。また，宋から元にかけての時代には，外国からの朝貢や商人の来航も続き，江南や福建・広東などで多数の港市が繁栄した。中国船は12世紀には，インド洋まで進出した。

●辺境の貿易ブーム

10世紀前後の数百年間は，交易拡大の影響がユーラシアの辺境部に及んだ時代だった。10～13世紀に北半球で温暖な気候が続き，各地の農業生産力が上昇したことも，交易の拡大を助けていた。例えばユーラシアの東方では，琉球諸島や北海道周辺を含む日本列島，朝鮮半島や中国東北から極東ロシア，東南アジアなどの地域でも，手工業品を含む商品の生産・輸出，各地の商人の活動，さらに琉球のような交易を基盤とした国家・文化の形成が進展した。

→2 ジャンク船　折りたたみ式の操作しやすい帆や，船底をしきる隔壁で一部が浸水しても沈みにくい構造をもつ。

また，北海道を中心とする地域での，日本の本州や大陸との貿易の活発化は，**アイヌ文化**の形成につながった。ほかの地域でも，ヨーロッパ北方の**ノルマン人**（ヴァイキング）の活躍，アフリカ東海岸での**スワヒリ文化**の誕生など，同種の動きがみられた。

●ネットワークの連鎖

こうしてユーラシアやアフリカの広い範囲で，古くからの幹線ルートだけでなく，周辺の海域や陸上にもネットワークが張りめぐらされた。インド商人が，綿布と交換に東南アジアから持ち帰った**香辛料**を，エジプトから来た商人に売り渡し，後者がこれをイタリア商人に転売してドイツ産の銀を受けとるといったリレー式の貿易も発達し，12～13世紀までに各地域のネットワークが緩やかにつながった。

貿易を担う各集団の間では，対立と協力の両方がみられ，混血や複数の言語・文化をもつ人々もよく現れた。日本列島の商人の中国渡航，十字軍を含むヨーロッパのイスラーム世界との交流など，周辺から中心を目指す動きも活発化した。

〈p.99　p.134〉

時代の特徴　10世紀前後から，中国商人の海上進出，ユーラシア・アフリカの辺境部での交易拡大などが起こり，12～13世紀にはそれらの全域をつなぐ緩やかな結びつきが成立した。

10世紀前後にユーラシアの辺境部まで交易が拡大し、陸海のネットワークが地域間をさらに緊密に結びつけたことがわかる。

「結びつく世界」の全体構成

（「結びつく世界」の掲載ページは、**本冊子 p.17** の一覧をご覧ください。）

1世紀～15世紀
陸海の交易ネットワークによって地域間の結びつきが緊密化していった過程や、地域を超える人や物の移動が世界の諸地域の歴史に与えた影響を**「ネットワーク論」**を軸に構成。

⬇

16世紀～18世紀
地球をめぐる交易ネットワークが成立して**「世界の一体化」**が始まるなか、工業生産が集中する地域と原材料・食料を生産する地域との分化が進み、垂直的な分業が生じたことを記述。

⬇

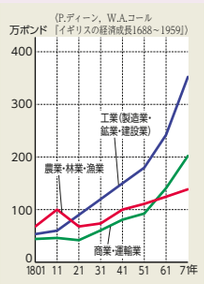
19世紀～現代
垂直的な分業が世界規模に拡大し、中核－周辺の構造化が進展したことを**「世界システム論」**を軸に構成。19世紀はイギリス、20世紀はアメリカの覇権の時代として描き、現代は従来の「世界システム」に見られなかった現象が生じている時代として捉えている。

特色3 世界全体のつながりが わかる「結びつく世界」

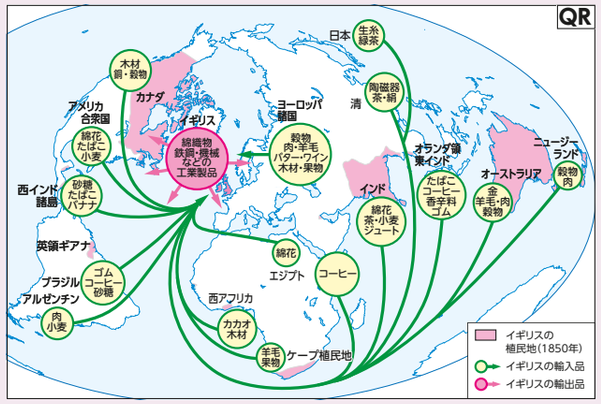
●世界システム論をベースに展開。世界のつながりを構造化して理解できる近現代史

●19世紀以降は、世界システム論をベースに世界全体を記述。
●複雑な近現代史を、「中核 - 周辺」の構造で理解できる。

⬇教科書 p.211



↑1 イギリスの産業別国民所得の変化



→2「世界の工場」イギリス

結びつく世界 19世紀 イギリスの覇権と世界システム

●覇権国家イギリス

国際関係において，ほかの大国を圧倒する国力を有し，国際関係全体のあり方を決める影響力をもつ国家を**覇権国家**とよぶ。

イギリスは，植民地と世界商業において優位をめぐるフランスとの抗争に勝ち，19世紀の世界における覇権国家となった。産業革命をいち早く成し遂げたイギリスは，「**世界の工場**」(➡p.207)となって，圧倒的な生産力を擁し，製品の輸出市場や原材料の供給地を世界中に求め，広大な植民地帝国を確立した。政治的には支配されなかったラテンアメリカなどの地域も，経済的にはイギリス向けの工業用原材料や穀物の輸出に依存するほかなくなった。

1851年にロンドンで開かれた第1回万国博覧会は，イギリスの覇権を人々の目に誇示するものであった。工業化の進展と交通の拡大によって，石鹸など日用工業製品の流通は国際的に拡大し，茶など植民地の物産も庶民の生活にまで普及した。

●イギリスの覇権と世界システム

イギリスの覇権は「**イギリスの平和(パクス=ブリタニカ)**」(➡p.206)ともよばれるようにヨーロッパにおける大国間関係をある程度安定させる効果をもった。一方でイギリスは，アジアやアフリカでほかのヨーロッパ列強と権益を争ってその勢力圏を確保しようとした。その結果，これまで自立的な交易を行っていた東アジアや東南アジアの諸地域でも，伝統的な手工業の多くが衰え，原材料や食料など，世界市場に輸出するための一次産品を生産する経済・社会につくり変えられていった。

少数の一次産品の生産に特化した産業の構造は**モノカルチャー経済**とよばれる。一次産品の大量生産には大量の労働力が必要になり，劣悪な労働環境の**プランテーション**が広がった。イギリスの覇権の下で世界経済は垂直的な分業の結びつきを強めた(**世界システム**)。モノカルチャー経済による**低開発**は，20世紀に植民地が独立したのちも，先進国の経済に従属させられたままで経済発展が進まず，先進国と開発途上国の格差が拡大する**南北問題**(➡p.329)の遠因となった。

一方，人の移動は，イギリスの植民地帝国による奴隷制の廃止(1833年)や，北京条約(1860年)などを通じた清朝の海禁の最終的廃止などを契機として変化した。それまでアジア各地へ向かっていたインド人(**印僑**)や中国人(**華僑**)が，ハワイや奴隷解放後のカリブ海地域，さらには金鉱の発見されたアメリカ西部やオーストラリアへ向かうようになった。

また植民地化の圧力は，アジアの伝統国家に自己改革を促す契機ともなった。オスマン帝国のタンジマートや清朝における戊戌の変法，日本の明治維新(➡p.227, ➡p.258, ➡p.240)などがその例に挙げられる。 ❮p.190 p.257❯

時代の特徴 いち早く産業革命を成し遂げたイギリスは，19世紀になると世界で圧倒的な力をもつ覇権国家となった。世界はイギリスの覇権の下で世界システムに組み込まれることとなった。

19世紀には、イギリスの覇権の下で垂直的な分業体制が世界規模で構造化された(世界システム)ことがわかる。

⬇教科書 p.212

世界システム論による歴史の見方を、丁寧に解説するコラムを設置。「中核」「周辺」「覇権国家」といった概念用語の説明と、構造図により、この歴史の見方をわかりやすく理解できる。

歴史の見方 世界システム論でみる世界史

世界史において，地域を横断する遠距離の交通や交易は，古代にさかのぼって常にみられる。しかし19世紀になると，工業化に先んじたヨーロッパ諸国と,アフリカやアジアなどその他の地域との間で，**垂直的な分業関係**が地球規模で形成された。ヨーロッパ諸国は，アフリカやアジア・ラテンアメリカの諸地域を安価な原料や食料の供給地とし，他方で製品の市場・資本の投資先として自国経済に組み込むことで発展を遂げた。他方，組み込まれた地域は，輸出用の一次産品の生産に特化させられ(**低開発**)，従属的な立場になった。

世界システム論とよばれる考え方では，原料や食料を生産する地域と，工業製品を生産する地域との間の垂直的な分業関係に基づく世界経済を，一つの「世界システム」とみる。そして工業化に先んじた地域を「**中核**」，原料や食料生産に特化させられた地域を「**周辺**」とよぶ。

世界システムの資本主義的な構造においては，「中核」がより広く深く「周辺」を世界経済に組み込んでいくほど，**格差**が深まる。「中核」で工業化が進み，**軽工業**から**重工業**へ，さらに**化学工業**や**電子産業**へとより新しく，利潤率が高い産業へ移行すると，相対的に古い産業が「周辺」に移転し，それにより工業化が進むことで，「中核」的な経済に近づく国も現れる(「**半周辺**」)。19世紀末から20世紀にかけての日本やロシア，20世紀末の東アジア諸国の経済発展はそのような例とみることができる。

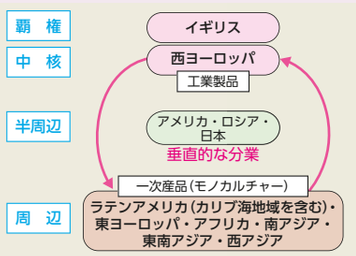
世界システムの「中核」のなかでも，**生産・商業・金融**の全てにおいて他国を圧倒する力をもつ国を「**覇権国家**」とよぶ。覇権国家は高い競争力を有し，自由貿易が自国の利益となるため自由貿易を主張し，貿易以外の分野でも**自由主義**を唱えるようになる。しかし覇権国家が独占的に保有していた技術や機会は，自由貿易を通じてしだいに他国にも開かれるため，その優位は時間の経過とともに失われ，「覇権」は衰退する。覇権の衰退期において最も長く維持されるのは金融上の優位であり，ロンドンのシティのように覇権国家の金融センターとしての役割が，長期的に持続する傾向がある。

「結びつく世界」のページでは，世界の同時代的な見方を交易ネットワークや垂直的な分業体制の構造に着目して紹介してきた。19世紀以降は，この世界システム論の視点で世界史をみていく。

●世界システムの動き

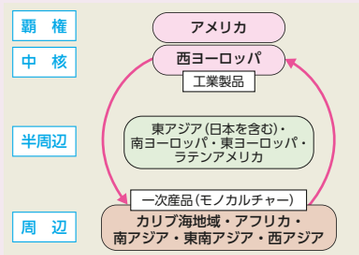
19世紀

19世紀の覇権国家はイギリスである。帝国主義を通じて「中核」・「周辺」関係はアジア・アフリカに大きく拡大した。「半周辺」国家としてのアメリカ・ロシア・日本が急速に上昇を遂げた。



20世紀

20世紀の覇権国家はアメリカである。「中核」・「周辺」関係はさらに地球規模に広がった。東・南ヨーロッパ，ラテンアメリカ，東アジアなど半周辺的な立場におかれた国家は少なくないが，最も力強い上昇を遂げたのは東アジアの「半周辺」国家である。



●「結びつく世界」一覧(全12箇所)

ページ	テーマ（タイトル）
34	1~2 世紀 諸地域を結ぶ「陸の道」と「海の道」
84	3~5 世紀 NEW!! ユーラシアの再編と交易ネットワーク
99	8~9 世紀 NEW!! イスラーム = ネットワークの形成
128	10~12 世紀 NEW!! 「海の道」の活性化
134	13~14 世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機
155	16 世紀 「世界の一体化」の始まり
190	17~18 世紀 「17 世紀の危機」とその後の諸地域の発展
211	19 世紀 イギリスの覇権と世界システム
257	19 世紀後半 ~20 世紀初頭 世界大戦前夜の世界システム
304	20 世紀前半 二つの世界大戦と資本主義の変容
338	20 世紀後半 アメリカの覇権とその変容
349	現代 世界システムの変容とグローバル化の行方

特色4 探究する力が身につく「探究TRY」「読み解き」

●資料読解を通じて思考力・判断力・表現力を養う特設「探究TRY」

●複数の資料を読解しながら、自分の考えを説明したり、議論したりする探究活動のためのページ。
●多面的・多角的な視点で歴史事象を考察できる。

⬇教科書 p.302-303

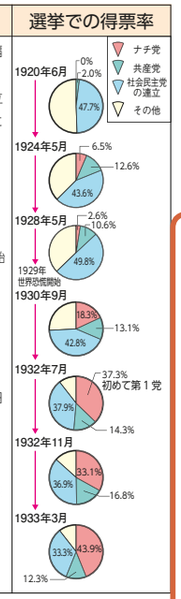
探究TRY 「普通の人々」とナチズム —ナチ党の大衆運動と異分子の排除

ナチズムの政権掌握とユダヤ人迫害はなぜ生じたのだろうか。資料を読み解いて考えてみよう。

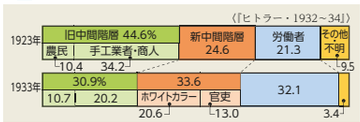
Question なぜ，人々はナチズムを支持したのか

資料1 ナチ党の動きと得票率・支持層の変化，当時の人々の反応

	ナチ党の動き
1920.2	ヒトラー，ナチ党を改編
23.11	ミュンヘン一揆
26	ヒトラーユーゲントの設立
32.7	総選挙でナチ党第1党に
33.1	ヒトラー首相就任
.2	国会議事堂放火事件 →共産党の非合法化
.3	初の強制収容所設置 全権委任法成立
.7	ナチ党による一党独裁の開始
.10	国際連盟脱退を通告
33	歓喜力行団の活動開始
34.8	ヒトラー，総統となる
36.8	ベルリンオリンピック
38.3	オーストリア併合
.8	ヒトラーユーゲントの来日
.9	ミュンヘン会談
.11	「水晶の夜」
39.6	反たばこ政策本格化
.8	障がい者に対する安楽死作戦の開始
	独ソ不可侵条約
.9	ポーランド侵攻 →第二次世界大戦



↑1 ナチ党の動きと得票率の推移



↑2 ナチ党員の職業別構成

→3 ナチ党の収穫祭で参加者に握手をするヒトラー（1937年）

史料 A 人々のナチ党への反応

（ある青年の回想）
わたしにとって決定的だったのは，ラインラントの占領と国防軍の復活だった。第一次世界大戦に出征した兵士たちは，当時，全員が勝利をわかちあった。わたしの父親であろうと，だれであろうと，みな心から感激した。〈山本秀行『ナチズムの記憶』〉

（ある職人の回想）
1933年以降，子供たちを大勢もてるようになり，未来が開けました。貧富の差がちぢまりました。どこでもそれがわかりました。チャンスが与えられたのです。
〈マイヤー著 田中浩 金井和子訳『彼らは自由だと思っていた』〉

（元銀行員の回想）
ボリシェヴィズム*は，奴隷状態や魂の死を意味するような気がしました。ナチズムに賛成するかどうかなど，問題ではありませんでした。ナチズムが，唯一の防壁のような気がしたのです。そこでの選択でした。　＊ここでは共産主義を指す
〈マイヤー著 田中浩 金井和子訳『彼らは自由だと思っていた』〉

（ある社会民主主義者の報告）
民族同胞の大部分は，歓喜力行団*をナチズムのほんとうに素晴らしい成果として評価している。歓喜力行団のスポーツ・コースは，年配者のあいだでも，ますます人気を集めている。だれでもそれに参加できる。　＊国民に余暇活動を提供した組織
〈ポイカート著 木村靖二 山本秀行訳『ナチス・ドイツ ある近代の社会史』〉

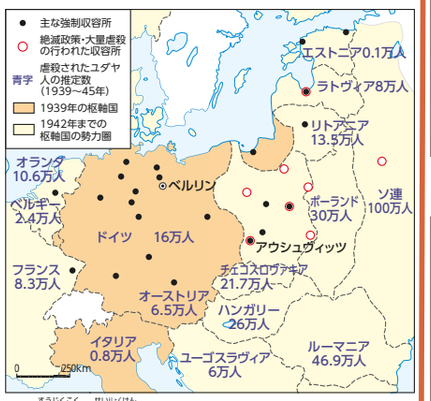
STEP1 読解 1）図1と2から，ナチ党はいつ，どのような層に支持を拡大していったと言えるだろうか。
2）史料Aで，人々はナチズムの魅力はどのようなものだと言っているだろうか。
3）ナチズムが人々に支持を広げた理由として最も大きいと考える資料や人々の証言はどれだとあなたは考えるだろうか。また，なぜそのように考えたのか，根拠も説明しよう。

STEP2 説明 ナチズムが支持を広げた背景を，次の用語を使用して説明しよう。

ヴェルサイユ体制　中間層　大衆運動　社会主義勢力　労働者　人種主義

Question なぜ，人々はユダヤ人迫害を止めなかったのか

資料2 ナチ党によるユダヤ人迫害の実態



↑4 枢軸国の勢力圏と収容所の分布

史料 B ナチ党による宣伝

彼ら（ユダヤ人）は国家を形成する力もなく，文化創造力，労働意欲もなく，労力なくして利益をむさぼり，いたるところで利益を吸い上げ，国際的な結びつきにより，国家経済の支配をもくろみ，国家を破壊しようとしている。そのためには手段を選ばない。
〈『ヒトラーとナチス第三帝国』〉

↑5 ナチ党による宣伝　ナチ党は反ユダヤキャンペーンを，新聞やポスターなどのほか，大衆運動を通じて展開した。

史料 C 収容所での体験談

出迎えるとは，人々の手荷物を，そのなかに入っているというか，隠されている値打ち品，つまり当時貴重になっていた日用品や，こっそり持ちこまれた宝石のたぐいもろとも取りあげることだった。戦争末期の当時，ヨーロッパでアウシュヴィッツほど金銀，プラチナ，ダイヤモンドがごっそり集積していたところはなかった。
〈フランクル著 池田香代子訳『夜と霧』〉

史料 D ユダヤ人迫害に対する人々の反応

（ある大学教員の証言）
…シナゴーグ放火事件とその後の事件からあとは，人びとに事態をわからせようとすることをあきらめました。…理解してもらえる余地や，理解させる能力がないし，事態がこのまま進行して，はじめに犠牲者が，つぎに体制の建設者が，そして，残った私たちが破滅するにちがいないことがわかっていたからです。
〈マイヤー著 田中浩 金井和子訳『彼らは自由だと思っていた』〉

（ある労働者の回想）
最後の学年のころには，ユダヤ人を目のかたきにする教師が担任になった。彼は，聖書の時間にユダヤ人問題をとりあげて，午前中いっぱいをこの問題についやし，ユダヤ人をののしった。〈山本秀行『ナチズムの記憶』〉

（ある農家の回想）
彼ら（ユダヤ人）は，もう20年もわれわれのところや叔父さんの農場に出入りしていた。ところが，…「農場主で退役軍人のX（叔父）は，民族の裏切り者で，ユダヤ人の奴隷である」と書かれたプレートが（村の掲示板に）立てかけてあった。〈山本秀行『ナチズムの記憶』〉

（ある住弟の回想）
ナチスが彼らにどんなことをしたのか，わたしたちみんなは知りませんでしたが，時とともにもれて伝わってきました。…彼らが強制収容所に送られて，ガスで殺され，大量にうめられた，ということはあと*になって知りました。…そんなことがおよそ可能だったということを認めたくないので，頭の外に追いやっているのだと，わたしは思います。
＊戦争の終結より前
〈山本秀行『ナチズムの記憶』〉

←6 見せしめとなったユダヤ人を見物する群衆（1938年） 首から下げたプラカードには「私は民族共同体から除外されました」と書かれてある。

STEP1 読解 1）ナチ党がユダヤ人迫害を行った理由は何だろうか。図4や史料BとC，教科書p.293も踏まえて考えよう。
2）なぜ人々は迫害を止めなかったのか，史料Dからどのような状況や人々の考えがあったのか，分類しよう。

STEP2 説明 人々がユダヤ人迫害を止めなかった最大の理由は何か，あなたの考えを説明しよう。また，現代の諸課題でこれらのことに類似する事例はあるか，考えてみよう。

STEP3 議論 STEP2でまとめた内容について，グループで発表し合い，議論してみよう。議論を経て，自分の意見が変わった場合は，STEP2でまとめた内容を変更しよう。

異なる立場からの史料を読み解くことで、歴史にはさまざまな解釈が成り立ち得ることがわかる。

自分の考えを説明したり、議論したりする探究活動を通じて、より深い考察ができる。

「探究TRY」の三段階の問い

STEP1 読解
複数の資料の読解を通じて、自分の考えをまとめる。

STEP2 説明
STEP1 をうけて、自分の考えを説明する。

STEP3 議論
STEP2 の内容をグループで発表し合い、 議論をもとに自分の考えを再検討する。

●「探究TRY」一覧（全6箇所）

ページ	テーマ（タイトル）
46-47	ユーラシア東部の国際関係 —「中華」の王朝とその周辺
82-83	古代ローマと世界帝国 —古代ローマの国家体制
156-157	銀にみる世界の一体化 —16 世紀の世界の結びつき
209-210	工業化による世界の変化 —労働・環境・国際分業体制
266-267	国民と国民国家の誕生 —国民統合と国家形成
302-303	「普通の人々」とナチズム —ナチ党の大衆運動と異分子の排除

1部2章にあたるp.10-11では「家族の形態の変化と歴史」を、p.12-13では「感染症への対応の歴史」をテーマに探究的な学習ができます。

特色4 探究する力が身につく 「探究TRY」「読み解き」

●各種資料から、資料読解の技能を養う「読み解き」の問い

●B5判型を活かし、本文の周囲にさまざまな資料を掲載。
●多数の資料に「読み解き」の問いを設置。
●資料を見る視点など、資料読解の技能が身につく。

⬇↘ 教科書 p.35

文章史料

史料 中国にいたソグド人がサマルカンドに出した手紙(313年)

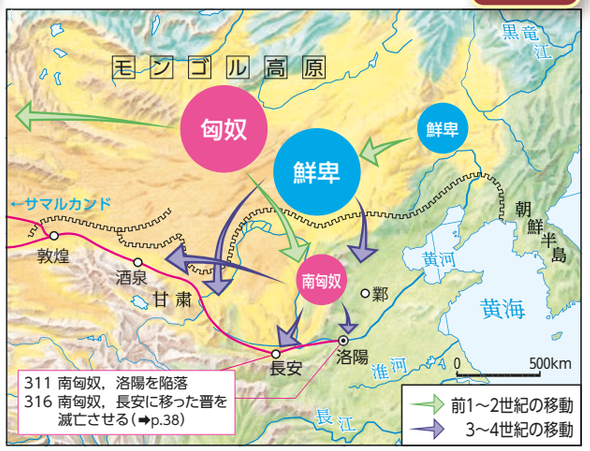
（この手紙は）ヴァルザック様へ，…私ナナイ=ヴァンダクから送られました。

…最後の天子は，飢饉のために洛陽から逃亡し，宮殿と城には火が放たれて焼け落ちました。洛陽も鄴も もうだめです。その上，匈奴*1たち……長安……まで，そして鄴までを，昨日まで天子の家来であったこの匈奴たちが……。…私たちには，残った中国人が長安から，中国から，匈奴を追い払うことができたのか，あるいは残りの国々を取り返したのか分かりません。…

私は敦煌に向け…32個の麝香*2を送りました，…（サマルカンドに）届けられましたら，それを5等分し，その5分の3は私の息子が取り，5分の1はペーサックが，そしてもう5分の1はあなた様が（おとり下さい）。

＊1 匈奴はこの手紙ではKhun（フン）とよばれている
＊2 香料・薬材の原料
（…は中略部，……は破損で読めない箇所）〈吉田豊 荒川正晴訳 一部改変〉

地図



↑1 遊牧民の南下の動き

読み解き この手紙は，中国でどのような出来事があったと伝えているだろうか。また，手紙を書いたソグド人はどのような仕事に従事しているだろうか。

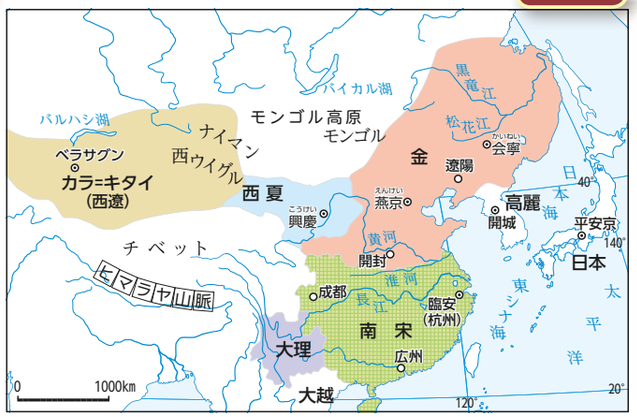
史料と地図から、五胡十六国時代の始まりの具体的な様相が読み取れる。また、史料に出てくるソグド人は商業に従事していたことが読み取れる。

⬇↘ 教科書 p.123

地図

↑4 キタイ帝国と北宋

地図



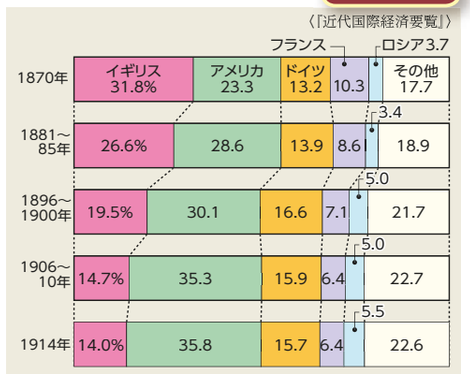
↑5 12世紀のユーラシア東方の多国家体制　遊牧国家のキタイ帝国はモンゴル高原にも進出し，女真人の金は高原の遊牧勢力を間接支配した。西夏は東西貿易を押さえて繁栄した。

読み解き 図4と図5を比較し，キタイ（カラ=キタイ）と金の支配地域で異なる点を二つ挙げよう。

地図を比較することで、金はキタイ帝国とは違いモンゴル高原を支配していないことや、12世紀はユーラシア東方の多極化が進んでいたことが読み取れる。

⬇教科書 p.247

グラフ



↑4 工業生産の国別割合の変化　**読み解き** アメリカとドイツがイギリスの工業生産を追い抜いたのは，それぞれどの時期だろうか。

第１次産業革命において「世界の工場」であったイギリスが、第２次産業革命の進行につれてアメリカとドイツに追い抜かれていくことが読み取れる。

⬇↘ 教科書 p.270

新聞

↑1 フランスの絵入り新聞（1914年10月4日）　ドイツ軍の砲撃で炎上するランス大聖堂（→p.89）が描かれている。ヨーロッパではヴァンダル人（→p.86）が野蛮な破壊者とされてきた。

読み解き 図1と2は，それぞれどのような効果を生むことをねらいとしているだろうか。

ポスター

ポスター

↑2 第一次世界大戦中に作成されたポスター（左 ドイツ，右 イギリス）

総力戦となった第一次世界大戦では、兵士を大量に動員する必要があったため、国家は新聞やポスターで国民の愛国心に訴えていたことがわかる。

特色5 理解がさらに深まる「紙　面の三段構成」

●歴史の流れがつかみやすい要約文・本文・側注の三段構成

●因果関係がわかりやすい本文と、地図や写真などの図版・資料に加え、要約文と側注を設置。

本文の要点をまとめた**要約文**
➡**本冊子p.24**で解説

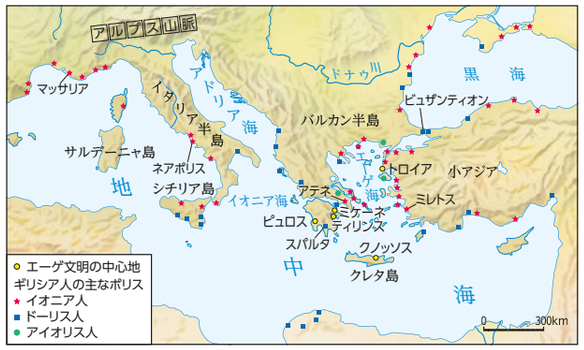
因果関係や社会構造、歴史事象の流れを丁寧に記した**本文**
➡**本冊子p.6-9**で解説

本文の詳細や補足を記した**側注**
➡**本冊子p.25**で解説

⬇教科書 p.64-65

↑1 クノッソス宮殿の壁画(復元)

読み解き 壁画には，どのような文化的特徴が表れているだろうか。



↑2 ギリシア人のポリス

2節 地中海周辺の国家形成

節の課題 古代ギリシアの社会，国家，文化・思想にはどのような特徴があるだろうか。

❶ **エーゲ文明の発見**　ドイツのシュリーマン(1822～90年)は，ホメロスの英雄叙事詩(→p.69)に描かれたトロイア戦争を史実と信じてトロイアやミケーネの遺跡を発掘し，エーゲ文明の存在を証明した。一方クレタ文明の中心地クノッソス宮殿を発掘したのはイギリスのエヴァンズ(1851～1941年)である。クレタで発見された絵文字と線文字Aは未解読だが，線文字Bはイギリスのヴェントリス(1922～56年)によって解読され，古いギリシア語を記したものであることが明らかにされた。

❷ **ギリシア人**　古代ギリシア人は方言の違いにより，イオニア人・ドーリス人・アイオリス人に分かれる。

❸ **植民市**　植民市は独立したポリスで，近代の植民地とは異なり，植民者を出した母市に従属することはなかった。

❹ **共通の民族意識**　ギリシア人は同じ言語を話し，同じ神々を信仰する自分たちのことをヘレネスとよび，異民族をバルバロイ(不可解な言語を話す人々)とよんで区別した。また，デルフォイの神託やオリュンピアの祭典(→p.70)などで，共通意識が深まった。

エーゲ文明

エーゲ海の島々では海上交易を基盤とする文明が成立し，やや遅れてギリシア本土ではギリシア人による最初の文明が成立した。

エーゲ海の島々やギリシア本土南部では，オリエントの影響を受けて，小規模ではあったが独自の青銅器文明が発達した。このいくつかの文明は，総称してエーゲ文明(Aegean)とよばれる。❶QR

クレタ島では，前2000年ごろからクノッソス(Knossos)を中心に複雑な構造をもつ宮殿が建設された。1 このクレタ文明(Kreta)は，城壁がない宮殿や鮮やかな彩色壁画から，平和で海洋的な性格であったと考えられている。一方ギリシア本土では，前1600年ごろインド=ヨーロッパ系の**ギリシア人**が，❷QR ミケーネ・ティリンス・ピュロスなどに堅固な城塞を王宮とする小規模な専制国家を成立させた。これが**ミケーネ文明**(Mycenae)である。彼らは前1400年ごろにクレタ島に進出し，後には小アジアのトロイア(トロヤ)にも遠征した。

エーゲ文明は前12世紀ごろ滅亡した。一説には「海の民」の侵入によるともいわれる。その後ギリシアは約400年間にわたって文字史料がない暗黒時代に突入したが，戦乱のなかで鉄器が広く用いられていった。➡p.61

ポリスの形成

長く続いた混乱のなかでギリシア人は，市民が政治を担うポリスという新しいかたちの都市国家を生み出していった。

前8世紀ごろになると，人々はアクロポリス(acropolis)とよばれる丘に神殿を建て，そこを拠点に集住するようになった。3 丘のふもとには集会の場としての広場(アゴラ(agora))が設けられた。こうした都市国家(**ポリス**(polis))は各地に生まれた。このころには海上交易が活発化し，アルファベットが用いられるようになった。➡p.61 人口が増加するとギリシア人は耕地を求めて植民活動を行い，地中海・黒海沿岸に多数の**植民市**❸を建設した。2 ポリスは互いに

↑3 アテネのアクロポリス　アクロポリスには守護神をまつる神殿があった。

抗争を繰り返したが，同じギリシア人であるという共通の民族意識を失うことはなかった。❹ 西アジアや中国では都市国家から世界帝国へと国家が発達していったが，ギリシアでは都市国家の形態を維持しつつ国家が発展した。

ポリスには初め，王がおかれていることが多かったが，後に貴族による支配が強まった。しかし戦争において**重装歩兵**❹の密集隊戦術が優勢になってくると，同等の資格で戦場に立ち，同じ責任を負うことから，政治参加を求める平民の声が強まり，参政権を有する**市民**が登場した。市民は成年男子に限られ，貴族・平民の違いはあったが土地を所有し，かつ自費で武具を用意する戦士であった。女性，ほかのポリスの出身者，**奴隷**は政治から排除され，特に奴隷は本人の意思を無視して市場で売買された。奴隷は主に戦争捕虜や債務によって自由を失った者で，家事・農業・鉱山などで労働を強制された。

↑4 重装歩兵の兵士

スパルタとアテネ(アテナイ)

二つの典型的なポリスのうち，スパルタは閉鎖的で強固な軍事体制を成立させ，商工業の発達したアテネは試行錯誤の末，民主政を成立させていった。

ギリシアで最も典型的なポリスはスパルタとアテネであった。ドーリス人の**スパルタ**(Sparta)では，征服した先住民をヘイロータイ(heilotai)(隷属農民)とし，またペリオイコイ(perioikoi)(周辺民)❺を支配した。市民の10倍以上の人口のヘイロータイを抱えたスパルタは，反乱に備え強力な軍事力を維持する必要があった。そのため市民は一切の生産労働をせずに，少年期から集団生活をして厳格な軍事訓練を行った。また市民間の平等を維持するため，土地の売買を禁じ，他のポリスと交易を行わなかった。

イオニア人の**アテネ**(Athenai)では，商工業の発展に伴って貧富の差が拡大し，裕福な貴族が政治を独占する貴族政となった。貴族政の下では，債務を負って財産を手放し，奴隷に転落する平民が後を絶たなかった。平民の没落は軍事力の低下を意味したため，前594年にソロン(Solon)は，債務の帳消しを行い，債務によって奴隷とされることを禁止して平民を保護した。さらに血統でなく財産額によって市民の政治的権利・義務に差をつけた

Key Word 市民(ギリシア・ローマ)

ギリシアやローマ(→p.72)などの古代都市国家では，戦闘に参加する戦士だけが，民会(→p.67)に参加し国政に関わる資格をもつ「市民」と考えられていた。中世になると「農民」に対し，城壁で囲まれた都市に住む人という意味で，「市民」は主に商人や手工業者を指した。ただし，そのなかで市政を担ったのは少数の富裕な大商人や親方に限られた(→p.112)。

❺ **スパルタの被支配民**　ヘイロータイは家族をもち集落をつくって生活したが，厳しい監視の下でスパルタ市民の農地を耕作し，徹底した収奪を受けた。またペリオイコイは商工業に関わり，従軍と貢納の義務を負い，また参政権は与えられなかった。

問い アテネとスパルタの共通点と相違点を要約しよう。

重要な概念用語については，「Key Word」でさらに深める。

地域インデックスで，学習地域が一目でわかる。

理解がさらに深まる「紙　面の三段構成」

●学習場面に応じて さまざまな活用ができる 要約文と側注

●要約文では、歴史の大まかな流れと全体像をつかめる。
●側注では、詳細な知識を補充できる。

要約文
●小見出しごとに、本文の要点を２行程度で端的にまとめた要約文を設置。

例）教科書２部３章５節「イスラームの誕生」の要約文

教科書

p.93 **西アジアの風土とイスラームの成立**
イスラームは乾燥地帯の西アジアで宗教として確立するとともに，オリエントと地中海の諸文明を吸収して新しい文明を生み出し，東西に広がった。

p.94 **預言者ムハンマド**
メッカに生まれたムハンマドは，神の啓示を受けて預言者と名乗り，イスラームの教えを確立した。

p.95 **イスラームとイスラーム社会**
ムスリムたちは『クルアーン』の教えとそれに立脚したシャリーアに従って生き，社会を営む。

p.95 **急速に拡大するイスラームの共同体**
アラブ人のムスリムの征服活動によって，広大なイスラーム世界が形成された。しかし，初期の統治は，アラブ人による異民族支配であった。

p.97 **シーア派とスンナ派**
イスラーム共同体の指導者をめぐる意見の相違から，二つの宗派が成立した。

p.97 **イスラーム帝国としてのアッバース朝**
アラブ人の異民族支配体制が崩れ，新たな王朝では，諸民族が対等なムスリムとして，社会的役割を担う体制がつくり出された。

要約文をつなげて読めば、西アジアの風土、イスラームの誕生から拡大まで教科書の6ページ分の内容を端的につかめる。

要約文の活用法（例）
・予習で大まかな流れを把握する。
・受験前に通史をおさらいする。
・授業で前時の内容をおさらいする。
・論述の文例として活用する。

側注
●本文に出てくる用語やさらに詳細な事項について、側注で解説。

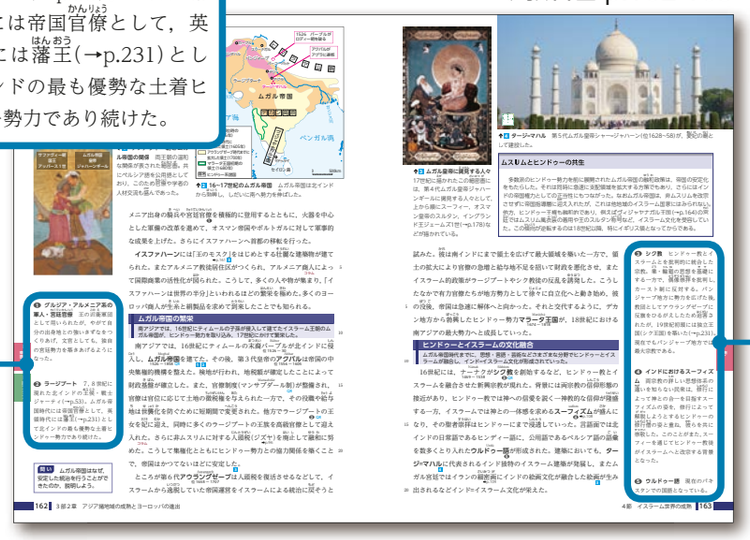
例）教科書 p.162-163 の側注

❶ **グルジア・アルメニア系の軍人・宮廷官僚**　王の近衛軍団として用いられたが，やがて自分の出身地との強いきずなをつくりあげ，文官としても，独自の宮廷勢力を築きあげるようになった。

❷ **ラージプート**　7，8世紀に現れた北インドの王侯・戦士ジャーティ(→p.53)。ムガル帝国時代には帝国官僚として，英領時代には藩王(→p.231)として北インドの最も優勢な土着ヒンドゥー勢力であり続けた。

本文で学習するサファヴィー朝やムガル帝国に関して、より詳細な知識をおさえられる。

⬇教科書 p.162-163



❸ **シク教**　ヒンドゥー教とイスラームとを批判的に統合した宗教。業・輪廻の思想を基礎にする一方で，偶像崇拝を批判し，カースト制に反対する。パンジャーブ地方に勢力を広げた後，教団としてアウラングゼーブに反旗をひるがえしたため迫害されたが，19世紀初頭には独立王国(シク王国)を築いた(→p.231)。現在でもパンジャーブ地方では最大宗教である。

❹ **インドにおけるスーフィズム**　両宗教の詳しい思想体系の違いを知らない民衆は，修行によって神との合一を目指すスーフィズムの姿を，修行によって解脱しようとするヒンドゥーの修行僧の姿と重ね，彼らを共に崇敬した。このことがまた，スーフィーを通じてヒンドゥー教徒がイスラームへと改宗する背景となった。

❺ **ウルドゥー語**　現在のパキスタンでの国語となっている。

側注の活用法（例）
・学習内容をさらに詳しく理解する。
・受験対策として、細かな知識を補充する。

その他 その他の特色

●章・節ごとの「見通し」・「振り返り」

●章には「見通し」「振り返り」を、節には「課題」「まとめ」を設置。
●章の「見通し」(課題)を受けて、各節で「課題」→「まとめ」を積み重ねながら、課題を追究。最後に章の「振り返り」で自分の考えを説明する。
●自身の考えを説明することで、思考力・判断力・表現力が養われる。

例） 4部5章　世界大戦の時代 の見通し・振り返り

4部5章の見通し

なぜ世界は二度の大きな戦争を引き起こしてしまったのだろうか。(教科書 p.268)

1節　第一次世界大戦と社会主義革命
課　題：第一次世界大戦はヨーロッパの列強にどのような変化をもたらしただろうか。(教科書p.268)
まとめ：第一次世界大戦によってヨーロッパ諸国とそれを取り巻く国際秩序はどのように変化したか、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.276)

2節　第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開
課　題：民族自決の理念はアジア諸国にどのような影響と変化をもたらしただろうか。(教科書 p.277)
まとめ：民族自決の理念はアジアの国民国家建設にどのように影響を与えたか、各地域の展開を踏まえて、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.285)

3節　大衆社会の到来とファシズムの出現
課　題：第一次世界大戦後の世界経済と欧米の政治の動きはどのように変化したのだろうか。(教科書 p.286)
まとめ：世界恐慌への各国の対応はその後の世界の政治や経済にどのような影響をもたらしたといえるか、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.293)

4節　第二次世界大戦とその惨禍
課　題：どのようにして、各国は第二次世界大戦に突入していったのだろうか。(教科書 p.294)
まとめ：ヨーロッパでの戦争、アジア・太平洋での戦争の原因と結果はそれぞれどのようなものか、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.301)

4部5章の振り返り

なぜ第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こってしまったのか、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.301)

●見開きの「問い」

●多くの見開きに章の「振り返り」・節の「まとめ」に関連する「問い」を設置。
●教科書のページが進むほど、難易度の高い「問い」が増えていく。
●着実な知識の習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成にもつながる。

⬇教科書 p.30-31

「抜き出そう」(難易度：**低**)
本文を抜き出して答える、簡単な問い。

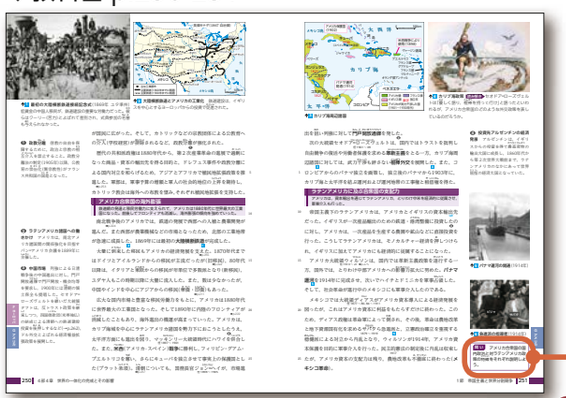
問い　中央ユーラシアにおいて強力な遊牧国家が生まれる条件を抜き出そう。

⬇教科書 p.102-103

「要約しよう」(難易度：**中**)
教科書の内容を自身で要約する問い。

問い　カリフとスルタンはどのような関係にあったのか，要約しよう。

⬇教科書 p.250-251



「説明しよう」(難易度：**高**)
教科書の内容を解釈し、自身の言葉で説明する問い。

問い　アメリカ合衆国の国内政治と対ラテンアメリカ政策の特徴をそれぞれ説明しよう。

その他の特色

●本文の内容を深め、多様な視点を養う各種コラム

●各種コラムを随所に設置。
●多面的・多角的な視点から歴史を考える。

視点を変えて(全21箇所)

さまざまな立場に焦点をあて、多面的・多角的に歴史事象を考えるコラム。

視点を変えて　聖地イェルサレムをめぐる争い

イェルサレムは，ユダヤ教にとっては神殿があった神の町であり，キリスト教にとってはイエスが処刑された聖地である。イスラームでは，ムハンマドの天国訪問の奇跡を象徴する土地とされた。三つの宗教の聖地とされたこの町では，それぞれの信者が共存していたが，しばしば，争奪戦争の対象ともなった。十字軍運動はその代表的なものであり，ヨーロッパ西部のキリスト教徒は，ムスリムの手からこの地を奪うため軍事遠征を繰り返した。

教皇ウルバヌス２世の演説(1095年)
これは，神のご意志による緊急の任務で…東方のキリスト教徒たちを援護するため，ただちに出発し，あの下劣な民族を同胞の土地から根絶やしにするようにと。〈阿部寿美代訳〉

サラディンの演説(1187年)
エルサレムは91年間も敵の手にあり…この地で神への礼拝を捧げることがまったくできなかった。…エルサレムを奪回するという手柄を，神は…取っておいてくださったのだ。〈阿部寿美代訳〉

↑1 イェルサレムの岩のドーム
イスラームの聖所にウマイヤ朝が建設したもので，ほぼ同じ場所にユダヤ教・キリスト教のそれぞれの聖所が存在する。

↑教科書 p.104

↑1『ナポレオン皇帝のベルリン入城　1806年10月27日』〈ヴェルサイユ宮殿蔵〉

視点を変えて　国民意識と文化遺産～ブランデンブルク門

ブランデンブルク門は，ドイツの代表的文化遺産の一つである。1806年にベルリンを占領したナポレオンは，ブランデンブルク門の屋上にある4頭立て馬車に乗る勝利の女神像をパリのルーヴル美術館に運び込み，フランスの軍事的栄光を国民に宣伝した。左の絵はナポレオンが描かせたもので，パリに持ち帰った像がまだ門の屋上に置かれている様子はベルリン占領の軍事的栄光を示すのに格好の素材となった。

1815年にナポレオンが失脚すると，パリを占領したプロイセン軍が像を持ち帰り，もとの場所に据えた。さらに，門に面する広場は，パリ占領を記念して「パリ広場」と改名された。

ブランデンブルク門という文化遺産は，独仏それぞれの国民意識の強化に関与したのである。

↑教科書 p.204

世界史の中の日本(全19箇所)

世界の動きと日本の動きが、どのように関連しているのかをみるコラム。

世界史の中の日本　大元ウルスと日本

日本と大元ウルスの間では，文永・弘安の役のため政府間の関係は開かれなかったが，民間の海上貿易は活発に行われた。戦争時や倭寇(→p.136)の出没時などには，両国の政府が沿岸警備の強化や海外交通の統制をしたが，それ以外の時期は海商が盛んに往来して貿易を行った。中心地となったのは寧波(明州，元代には慶元)と博多(→p.127)であり，博多は元軍の攻撃目標となったにもかかわらず，戦後はすぐに繁栄が戻った。戦争や外交を担った幕府や寺社なども，有力者が寺院建設費の捻出の名目で貿易船を派遣し，私的なかたちで貿易を行っていた。貿易船には多くの僧が便乗して往来し，禅宗や宋学など新しい学問や文化がもたらされた。喫茶の風習が広まったのも，禅僧を通してである。

↑2 元軍と戦う日本の武士　元軍は，モンゴル・女真・高麗・南宋などさまざまな出身者の混成であった。日本側は元軍の集団戦法や火薬兵器に苦戦したが，元軍も日本側が築いた防塁に上陸をはばまれた。〈『蒙古襲来絵詞』皇居三の丸尚蔵館蔵〉

↑教科書 p.131

世界史の中の日本　日本銀と「円」

古来，ユーラシアで国際通貨として通用してきたのは銀であった。銀は，小額で不便な銅銭や信用の維持が難しい紙幣と違って，額面が大きく価値が安定していたので，高額取り引きや貿易の決済に広く用いられた。東方では重さによって価値が決められて通用し，モンゴル時代にはユーラシア規模で流通した(→p.133)。

モンゴル帝国の解体後いったん下火になった銀の流通は，16世紀に再び拡大した。第一の波は，1530年代を画期とする日本銀の増産である。中心となったのは，現在，世界遺産にも登録されている石見銀山であり(→p.156)，朝鮮からの精錬技術の導入によって，銀の産出量が爆発的に増加した。17世紀初めには世界の銀の約３分の１を産出したといわれ，日本はアジア最大の産銀国となった。第二の波は，スペインのアメリカ植民地から産出されるメキシコ銀であり，1570年代以降，貿易の代価として東アジアにもたらされた。明に流れ込む銀の量は，17世紀初頭の時点で年間75～150トン程度と見積もられ，当時の世界の年間産銀量の20～40%を占めたとみられる。

メキシコ銀は円形の鋳造貨幣だったので，各地で「円」，または漢語で同じ発音の「元」とよばれた。現在，通貨単位として使われている日本の「円」，韓国の「ウォン(元)」，中国の「元」は，いずれも同じ語源に由来している。

↑教科書 p.139

その他 その他の特色

●本文の内容を深め、多様な視点を養う各種コラム

SDGsを考える世界史（全18箇所）

歴史事象から、SDGs の 17 の目標の視点について考えるコラム。

SDGsを考える世界史　南北問題是正の取り組み

南北格差是正に取り組む国際協力機関が1960年代に二つつくられた。まず，1961年に設立された経済協力開発機構（OECD）は先進工業国を中心に構成され，主要活動の一つを，低金利の融資を開発途上国に提供することとし，日本も64年に加盟した。また，南側諸国の主導により国連貿易開発会議（→p.305）が設置され，その第１回会議（1964年）では，先進工業国による発展途上国への技術援助・資金援助（GNPの１％）や特恵関税制度適用などを求めた。こうした政府レベルの取り組みに加えて，国家間の利害対立を超えて活動する非政府組織（NGO）などの非営利団体（NPO）のなかに，南北問題是正に取り組むものがある。そうした活動のうち，私たちが日常の買い物を通じて貢献できるものとして，近年注目されるようになったのがフェアトレードである。これは発展途上国の産品を適正価格で継続的に購入することにより，途上国の生産者や労働者の生活改善を目指す取り組みである。

↑2 日本で販売されているフェアトレード認証製品

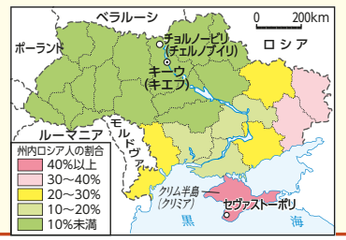
⬆教科書 p.329

ケーススタディ 現代の諸課題を考える（全8箇所）

現代世界の諸課題を歴史的経緯から読み解くコラム。

ケーススタディ 現代の諸課題を考える　冷戦後に起こった紛争①～クリム（クリミア）半島を事例に

ソ連解体時に独立したウクライナではクリミア自治共和国が設けられたが，ロシア人とウクライナ人，クリミア=タタール人の間で民族的軋轢が高まり，ロシア人がロシア連邦へのクリム（クリミア）半島編入を求める住民投票を求めた。ウクライナと欧米各国，日本は，この投票は加盟国の領土保全を求める国連憲章に違反するとし，国連総会においても中止を求める決議が採択された。しかし2014年に投票は強行され，賛成票が過半数を得たとして，ロシアはクリム半島を編入した。直後の演説でロシア大統領プーチンは，ウラジーミル１世（→p.121）がこの地で正教に改宗したことなど，歪曲されがちな歴史的記憶をもとに編入を正当化し，編入が国際法違反であることには口をつぐんだ。これによりロシアはG8参加資格停止の制裁（→p.331）を課されたが，さらに2022年，全域に侵攻したため，紛争はクリミアの枠を越えて深刻化した。



13世紀	モンゴルによるクリム半島支配（→p.130）
15世紀	クリム=ハン国建国（→p.226）
1783	クリム=ハン国，ロシアに併合される（→p.183） →セヴァストーポリ要塞の建設
1853	クリミア戦争（→p.218）
1917	ロシア革命により混乱（～21）（→p.272）
21	クリミア自治共和国設立（翌年，ソ連邦構成国へ）
54	ソ連，クリミアをウクライナ共和国へ移管
91	ソ連解体 →ロシア人住民，ウクライナ人住民，クリミア=タタール人住民間の対立
2014	ロシアによる編入表明

↑2 クリミアの歴史

←1 ウクライナに住むロシア人の州別割合（2001年）

⬆教科書 p.324

その他 本文執筆者紹介

大阪大学名誉教授
桃木　至朗
【東南アジア・海域アジア史】

主な執筆箇所：東南アジア史全般、現代史、各部扉

主著：『市民のための歴史学』大阪大学出版会、2022年
『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年（共編著）

京都大学名誉教授
杉本　淑彦
【近現代フランス史】

主な執筆箇所：近代以降のヨーロッパ史、現代史

主著：『ナポレオン―最後の専制君主、最初の近代政治家』岩波書店、2018年
『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年（共編著）

神戸市外国語大学名誉教授
指　昭博
【近世ヨーロッパ史】

主な執筆箇所：中世～近世のヨーロッパ史

主著：『図説イギリスの歴史［増補新版］』河出書房新社、2015年
『イギリス宗教改革の光と影～メアリとエリザベスの時代～』ミネルヴァ書房、2011年

早稲田大学高等学院教諭
青野　公彦
【中世ヨーロッパ史】

主な執筆箇所：古代～中世のヨーロッパ史

主著：「教会改革とナツィオ（国民）：一四一八年のコンコルダートをめぐって」（森原隆編著『ヨーロッパ・エリート支配と政治文化』成文堂、2010年所収）

名古屋大学助教
三田　昌彦
【インド古代中世史】

主な執筆箇所：南アジア史全般

主著：『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015年
『世界歴史大系 南アジア史 2』山川出版社、2007年（共著）

九州大学教授
清水　和裕
【初期イスラーム史】

主な執筆箇所：古代～近世のイスラーム関係箇所

主著：『イスラーム史のなかの奴隷』山川出版社、2015年
『軍事奴隷・官僚・民衆：アッバース朝解体期のイラク社会』山川出版社、2005年）

東京大学教授
吉澤　誠一郎
【中国近代史】

主な執筆箇所：近代以降の東アジア史

主著：『論点 東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年（監修、共著）
『清朝と近代世界―19 世紀（シリーズ中国現代史１）』岩波書店、2010年

立命館大学教授
山下　範久
【歴史社会学】

主な執筆箇所：16 世紀以降の「結びつく世界」

主著：『教養としてのワインの世界史』筑摩書房、2018年
『世界システム論で読む日本史』講談社、2003年

東京大学教授
杉山　清彦
【大清帝国史】

主な執筆箇所：古代～近世の東アジア史・中央ユーラシア史

主著：『中国と東部ユーラシアの歴史（放送大学教材）』NHK 出版、2020年（共編著）
『大清帝国の形成と八旗制』名古屋大学出版会、2015年

立命館大学教授
末近　浩太
【中東・イスラーム地域研究】

主な執筆箇所：近代以降のイスラーム関係箇所

主著：『中東政治入門』筑摩書房、2020年
『イスラーム主義 ― もう一つの近代を構想する』岩波書店、2018年

QRコンテンツ 教科書内容の理解を助　ける充実のコンテンツ

授業や自学自習ですぐに活用できる！
教科書に関連したデジタルコンテンツ

教科書p.3「QRコードについて」や教科書の裏表紙に掲載しているQRコードを読み取ることでアクセス可能。

＊QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトにアクセスした際には、通信料がかかる場合があります。
＊QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

▲ QR コンテンツはこちらから

演習問題

●教科書に準拠した演習問題をWeb上に用意。
●学校法人河合塾と共同作成。全93問の問題を掲載。
●テスト前や受験前の演習にも活用できる。

⬇演習問題 2部1章 問6

2部1章　問6

Q.

中国に続いて，高句麗・新羅・百済の三国が並立していた朝鮮半島でも，７世紀に統一に向かう動きが起こった。７世紀における，朝鮮半島がほぼ統一されるまでの諸国の動向を，周辺諸国との関係にも留意しながら120字以内で説明せよ（句読点も字数に含めること）。解答にあたっては，下記の二つの語句を適切な箇所で必ず用い，用いた箇所には下線を施せ。

煬帝　　白村江の戦い

重要用語

●教科書執筆者による用語解説をWeb上に用意。
●全493語の解説を掲載。
●歴史用語をより深く理解できる。

⬇重要用語「産業革命」

重要用語

産業革命

18世紀のイギリスで始まった，それまでの農業主体の社会から工業主体の社会への変換のこと。自然科学の研究が進んだことで，その成果を活かした技術革新が相次ぎ，製造業が飛躍的に成長した。先んじた農業分野における技術革新（農業革命）によって食糧供給が安定したことでもたらされた人口増が工場での労働力を支えた。近年，「革命」といえるほど急激な変化であったかについては異論もあるが，世界史的に考えた場合，さまざまな領域に大きな変化をもたらしたことは間違いない。【教p.194】

一問一答

●教科書に準拠した一問一答に取り組める。
●全760問掲載。
●取り組む際には、部ごと、章ごと、節ごとのいずれかを選択できる。

⬇一問一答 2部2章2節（解答画面）

単元選択へ

Q. 8世紀半ば，シャイレーンドラ朝によって築かれたジャワ島中部の仏教遺跡を何というか。

A.

ボロブドゥール寺院

動画

●本文や図版に関連した動画を見ることができる。
●全20点の動画を掲載。
＊教科書に「QR動画」マークがある図版や、本文の「動画」アイコンが付いた用語に関する動画を掲載。

ページ	タイトル	ページ	タイトル
193	ローズヴェルト大統領のラジオ演説	307	ベルリン空輸
271	第一次世界大戦中に工場で働く女性（アメリカ）	310	サンフランシスコ平和条約調印
272	民衆に向かって演説するレーニン	323	マルタ会談
286	フォードの自動車工場（1928年）	323	「ベルリンの壁」の開放
291	混乱するニューヨーク証券取引所	325	湾岸戦争
294	昭和天皇と面会する溥儀（1935年）	331	ニクソン大統領による金・ドル交換停止発表
299	真珠湾攻撃の被害	332	イラン＝イスラーム革命
300	原爆で破壊された広島市街	333	天安門事件
301	ヤルタ会談	334	東海道新幹線の開通
302	ナチ党支配下のドイツ	343	アポロ11号の打ち上げ

地図

●特設「結びつく世界」に掲載された世界地図の画像データを掲載。

外部リンク

●学習に役立つウェブサイトへのリンク集を掲載。
●海外の博物館へのリンクも掲載。

関連教材 充実のラインアップで　授業をサポート

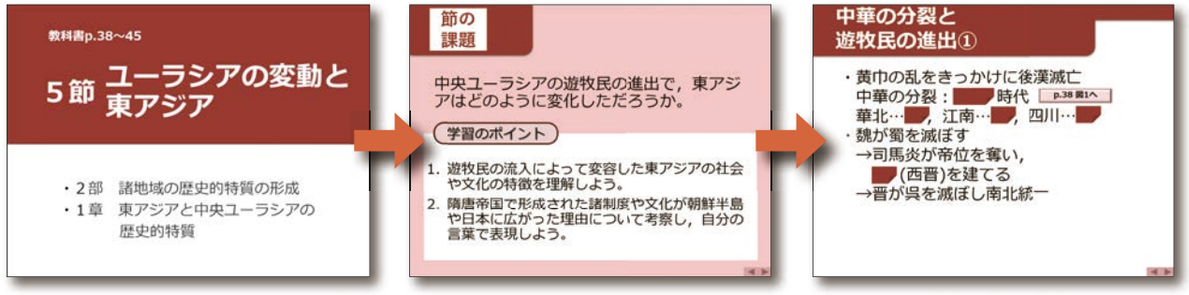
1 指導資料

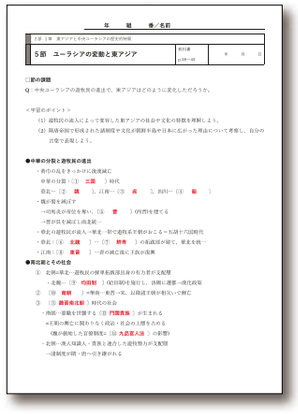
書　名	収録内容
新詳 世界史探究 指導資料 Webサポート コンテンツ付 定価：28,600円(税込)	**①指導資料** ◦通常ページについては、単元のねらい、指導内容の整理、指導上のポイント、問い・読み解きの解答例、写真・図版の解説、本文の解説、参考文献などを掲載。 ◦その他、「問いを表現しよう」や特設「探究 TRY」「結びつく世界」の解説、また指導書オリジナルの特設ページ「論点」「論点現代」も掲載。 **②指導書 Web サポート*** ◦授業スライド（.pptx/Google スライド） ◦授業プリント（.docx） ◦見通し・振り返りシート（.xlsx） ◦特設ページワークシート（.docx） ◦評価問題例〈テスト例〉（.docx） ◦年間指導計画案・評価規準例（.xlsx） ◦指導内容の整理（.txt） ◦教科書紙面（.pdf） ◦教科書本文（.txt） ◦教科書掲載図版〈カラー・モノクロ〉（.jpg） ◦問い・まとめ・振り返りの解答例・ポイント（.txt） ◦『新詳 世界史探究 演習ノート』データ（.docx） ◦教科書 QR コンテンツ〈一問一答〉（.xlsx） ◦教科書 QR コンテンツ〈重要用語〉（.xlsx） ◦教科書 QR コンテンツ〈映像資料〉へのリンク ◦ QR コンテンツの素材へのリンク ◦白地図集（.jpg） ◦参考文献（.docx） ＊ Web サポートは、帝国書院ウェブサイトからデジタルコンテンツをダウンロードいただけるサービスです。

指導書 Web サポートの例

Googleスライドも
ご利用いただけます

▼授業スライドのイメージ





◀授業プリントのイメージ

授業スライドの付せんの部分を穴埋めにしているので、スライドと連携して活用できる。

◀教科書紙面のイメージ

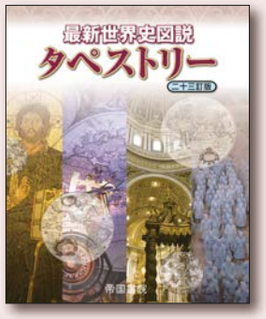
教科書紙面の PDF データをダウンロードすることができる。電子黒板に投影して授業することができる。

2 教科書準拠ノート

書　名	収録内容
新詳 世界史探究 演習ノート 定価：730円(税込)	◦教科書に完全準拠した、書籍版のノート。 ◦学習事項を着実に習得できる。 ◦資料読解の問題も収録。資料を読み解く技能が身につく。
デジタル準拠ノート 新詳 世界史探究 定価：980円(税込)	◦「新詳 世界史探究 演習ノート」を、タブレット用に再構成。 ◦タブレットに入力した解答は、自動で正誤判定される。 ◦先生用管理ページで、生徒の学習進捗状況を確認できる。 ◦作問ツールで、新たな問題を作成し、配信できる。
セット版（書籍＋デジタル） 定価：1,480円(税込)	◦書籍版とデジタル版の両方を使用できる。

※価格は2025年度版のものです。

3 資料集

書名 /特色　＊ 価格は2025年度版のものです。	販売形態
 **最新世界史図説 タペストリー 二十三訂版** ◦世界史のタテ（時間軸）とヨコ（空間軸）を整理できる全体構成。通史ページでタテの流れを、世紀別「世界全図」でヨコのつながりを確認できる。 ◦入試頻出の時事問題と関連づけた問題やテーマ史問題、資料読み解き問題などに対応できるよう、グラフ資料や年表資料、絵画資料などを豊富に掲載。	書籍版 定価990円(税込)
 明解世界史図説 エスカリエ 十五訂版 ◦導入の「クイズ」とまとめの「ポイントチェック」で、楽しく世界史学習に取り組める。 ◦歴史上の人物を身近にとらえる「チャートで診断 あなたと気が合う !? 世界史上の人物」や、文化の特色や社会背景を眺める「アートに TRIP」など、世界史に興味を持てる仕掛けが充実。	書籍版 価格887円(税込)

特色一覧

＊下記の表は、帝国書院ウェブサイトで閲覧・ダウンロードできます。

項　目	内　容
総合的な特色	・因果関係を重視して書かれた本文や、「文化から見る当時の社会」、また特設「結びつく世界」により、**世界史の流れや社会構造、文化の背景、世界のつながりが理解できる**。 ・特設「探究TRY」をはじめとする資料読解や問いにより、**思考力・判断力・表現力を育成できる**。 ・要約文・本文・側注の三段構成や、豊富な資料により、**世界史を整理して学習することができる**。
内容	・本文は全時代において、**因果関係が重視され、歴史の流れや社会構造が理解できる**記述となっている。 ・多様な世界の成り立ちとそこに暮らす人々との共生、国際協力の重要性を理解できるよう、２部では諸地域の歴史的特質の形成が、３部では諸地域の交流やつながりの歴史が、４部では世界の結びつきのなかで起こった戦争と平和への取り組みが、５部では現代世界の課題と解決に向けた取り組みが丁寧に取り上げられている。 ・随所に「文化から見る当時の社会」が設けられ、絵画や史料などの文化資料を読み解くことで、**当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響を理解できる**ようになっている。 ・随所に特設「結びつく世界」が設けられ、**同時代的におこった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係が理解できる**ようになっている。 ・コラムは、多様な立場を踏まえて歴史事象を多面的・多角的に考える「視点を変えて」、当時の日本と世界の結びつきや相互の影響を紹介する「世界史の中の日本」、持続可能な開発目標に関する歴史事象を紹介する「SDGsを考える世界史」、現代のさまざまな諸課題の歴史的経緯を理解できる「ケーススタディ　現代の諸課題を考える」など、さまざまな視点から内容を深められるよう設置されている。 ・特設「探究TRY」は、これまで学習した内容を踏まえて複数の資料を読み解くことで、**学習上重要な概念についての理解を深めながら、思考力・判断力を育成できる**ようになっている。
構成・分量	・補足的な事項や詳細な内容は側注に書き分けられており、学習内容のポイントを端的に押さえることができる小見出しごとの要約文も設置されているため、**歴史の大枠から詳細な事項までを整理して学習できる**ようになっている。 ・**図表や絵画資料、史料が充実している**とともに、資料読解を促す「読み解き」が随所に設けられ、資料の比較や関連づけなど、**資料の活用を通して思考力・判断力を育成できる**よう配慮されている。 ・思考力・判断力・表現力を育成することができるよう、学習を見通す「章の見通し」「節の課題」、学習内容を振り返る「問い」「節のまとめ」「章の振り返り」などが随所に設置されている。 ・**教科書全体を通して、QRコンテンツが充実し、教科書紙面を超えたさまざまな学びに対応できる**ようになっている。特に、「一問一答」「演習問題」は学習内容の定着を図ることができるよう、「重要用語」「地図」は学習事項に対する理解を深めることができるよう、「動画」「外部リンク」は学習意欲を高めることができるよう配慮されている。
表記・表現及び使用上の便宜	・学習指導要領に合わせて、重要事項がもれなく丁寧に解説されている。 ・**ふりがなや重要語句へのゴシック（太字）**が効果的にほどこされている。 ・本文には関連図版・写真の図番号が示されており、**資料の活用を促す工夫**がなされている。 ・本文行間には関連する事項が扱われている箇所への参照ページが割り当てられている。
ユニバーサルデザインへの対応	・本文や側注、キャプションなどの文字は、はっきり読み取ることができる**ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）**が使用され、読み取りやすい配慮がなされている。 ・**カラーユニバーサルデザイン**に配慮されており、色覚特性をもつ生徒にも読み取りやすい表現になっている。
その他	・紙は環境に配慮した用紙が使用されているほか、裏写りがしない用紙が使用されている。 ・インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキが使用されている。 ・使用期間の間、破損することがないよう、**堅牢なつくり**になっている。 ・指導資料や準拠ノート、デジタル教材など、**充実した関連教材が用意**されている。

著作関係者

※所属・肩書は令和7（2025）年3月時点のもの

著作者

桃木　至朗　（大阪大学　名誉教授）
杉本　淑彦　（京都大学　名誉教授）
指　昭博　（神戸市外国語大学　名誉教授）
青野　公彦　（早稲田大学高等学院　教諭）
三田　昌彦　（名古屋大学　助教）
清水　和裕　（九州大学　教授）
吉澤　誠一郎　（東京大学　教授）
山下　範久　（立命館大学　教授）
杉山　清彦　（東京大学　教授）
末近　浩太　（立命館大学　教授）
青木　一真　（東京都立国際高等学校　指導教諭）
大橋　康一　（滋賀県立高等学校　元教諭）
加藤　健司　（愛知県立明和高等学校　教諭）
川島　啓一　（同志社中学校・高等学校　教諭）
後藤　誠司　（京都市立高等学校　元教諭）
野々山　新　（愛知県立大府高等学校　教諭）
美那川　雄一　（静岡県立小山高等学校　教諭）
株式会社帝国書院

編集協力者

笹川　裕史　（大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎　教諭）
矢部　正明　（関西大学中等部・高等部　教諭）
学校法人　河合塾

特別支援教育に関する監修・校閲者

丹治　達義　（筑波大学附属視覚特別支援学校　教諭）

帝国書院

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-29
電話　03-3262-4795（代）
URL　https://www.teikokushoin.co.jp/

◀帝国書院特設ウェブサイトはこちらから

© Teikoku-Shoin Co., Ltd. 2025